

第 6 次総合計画後期計画の策定に向けた
住民意識調査

結果報告書

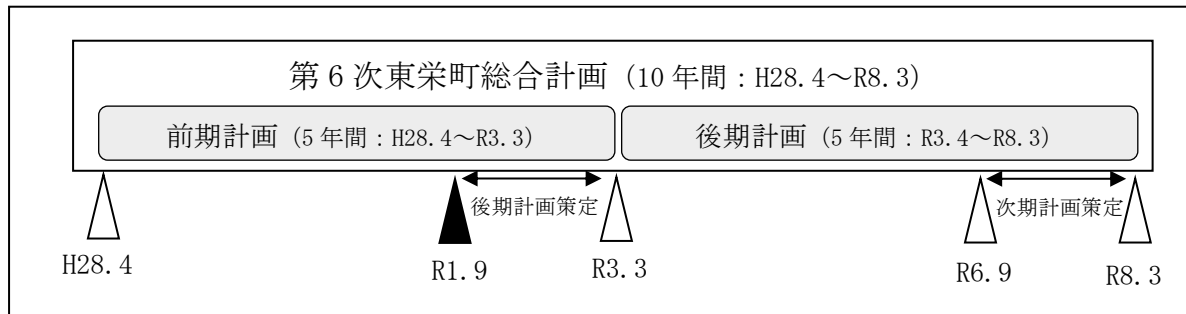
令和元年度

東栄町

1. 調査の目的

令和3～7年度の第6期総合計画後期計画策定の準備を進めるにあたり、その前期計画に対する住民の評価を確認するとともに改善点を明らかにするため、住民意識調査を実施。

■ 第6次総合計画の策定と住民意識調査



2. 調査方法

- (1) 調査地域 : 東栄町全域
- (2) 調査対象 : 東栄町在住の18歳以上の全町民
- (3) 対象者数 : 2,851通（配布数）
- (4) 調査方法 : 無記名式、悉皆調査
（但し、年代・性別・居住地区などを確認）
《配布》
町の広報等配布ルートを活用し、行政区・町内会を通じて各戸毎に①通知文 ②アンケート用紙（書き込み式）③返信用封筒を配布。宛名には世帯主・対象者名を併記した。
《回収》
返信用封筒（料金受取人払い）による郵送。一人一通ずつ封筒を用意し、回答者が各自返信。
- (5) 調査期間 : 2020年9月2日 ～ 9月25日

3. 回収結果

配布数（対象者数）	2,851 通
有効回答数	1,300 通
回収率	45.60%

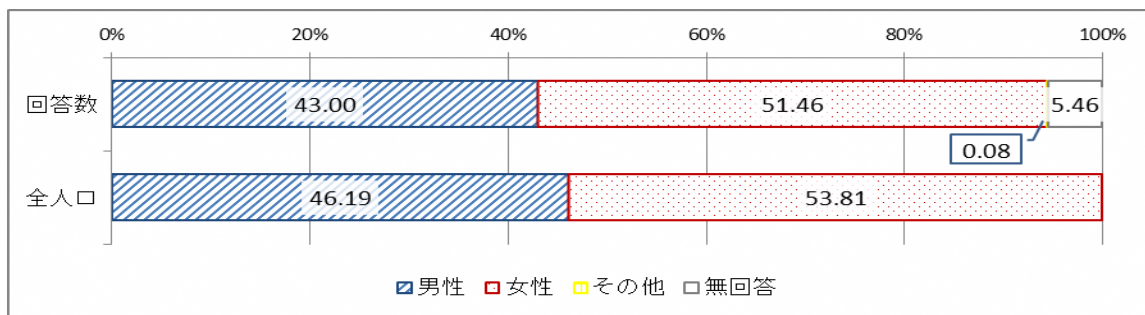
4. 本報告における注意事項

- 図中の構成比（%）は、小数点以下第3位を四捨五入したものを示した。
- 表、グラフ等の見出し及び文中の記述について、趣旨が変わらない範囲で表現を改めた箇所がある。
- 回答者数の母数には、原則として無回答を含むものとする。
- 複数回答可とした設問に対しては、有効回答数 1,300 を母数として割合を提示している。

問 1-1 あなたの性別を教えてください。

住民基本台帳（平成 31 年 4 月 1 日現在）の性別人口と回答者の性別の構成を比較したところ、両者は比較的近似しており、性別という観点における偏りなく住民の意識を確認することができたと考える。

■性別

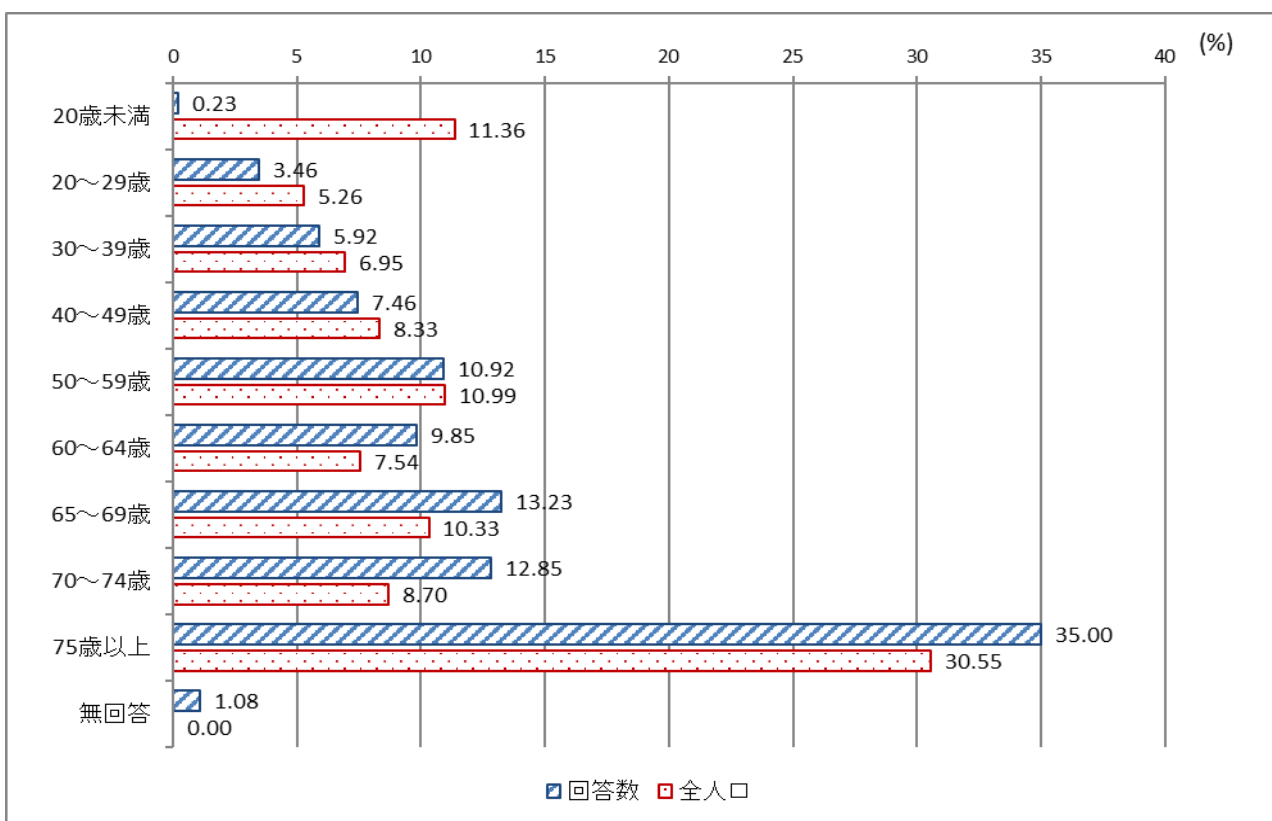


問 1-2 あなたの年齢を教えてください。

回答者の年代構成とともに、住民基本台帳（平成 31 年 4 月 1 日現在）の年代別人口と回答者数を比較した。

■年齢

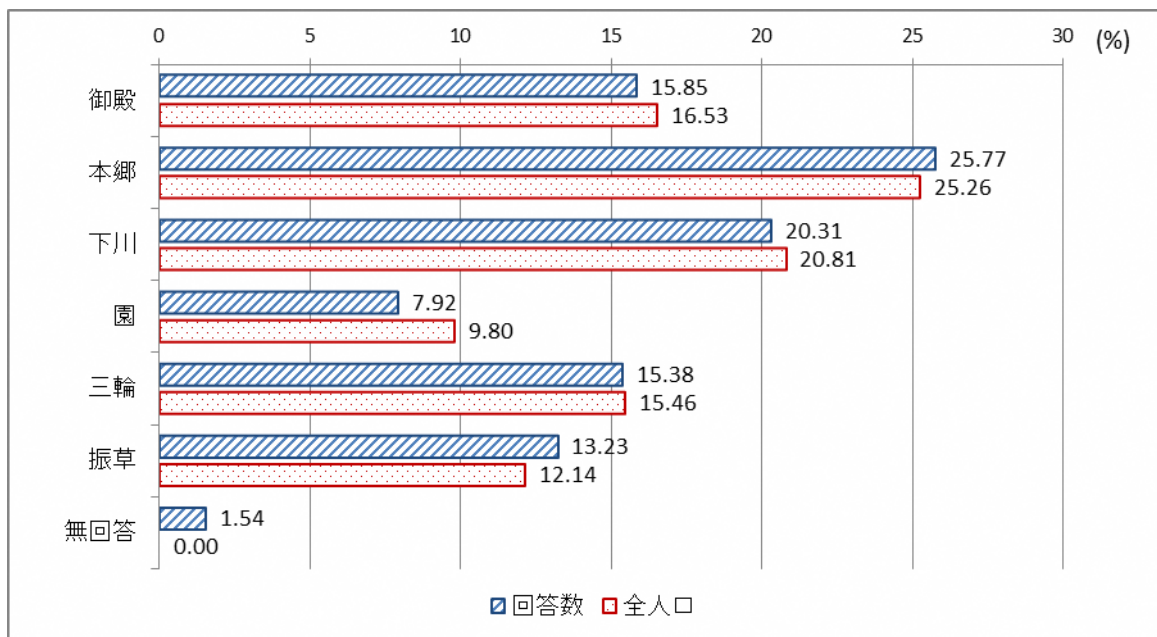
	年齢	人		%	
		回答数	全人口	回答数	全人口
1	20 歳未満	3	363	0.23	11.36
2	20～29 歳	45	168	3.46	5.26
3	30～39 歳	77	222	5.92	6.95
4	40～49 歳	97	266	7.46	8.33
5	50～59 歳	142	351	10.92	10.99
6	60～64 歳	128	241	9.85	7.54
7	65～69 歳	172	330	13.23	10.33
8	70～74 歳	167	278	12.85	8.70
9	75 歳以上	455	976	35.00	30.55
0	無回答	14	0	1.08	0.00
	合計	1,300	3,195	100.00	100.00



問2 あなたがお住まいの地区を教えてください。

住民基本台帳（平成31年4月1日現在）の居住地別人口と回答者の居住地を比較したところその比率は近似しており、地域的偏りなくデータを集めることができたといえる。尚、比較にあたっては、15ある行政区を6つにまとめ算出した。

■居住地（6地区分類）

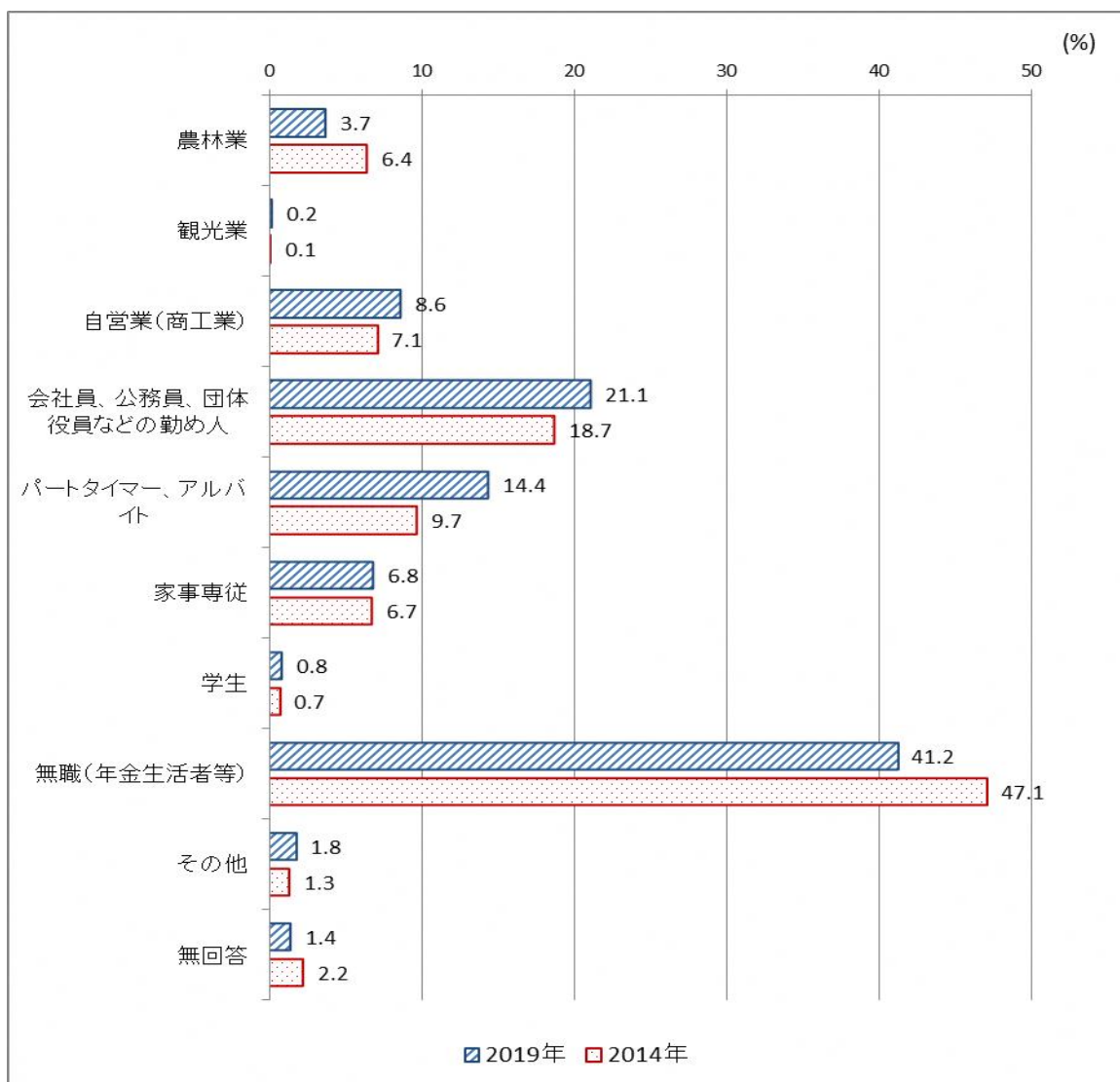


問3 あなたの職業を教えてください。

高齢化が進む中、前回調査時と比較して「無職」が6ポイント近く下がっている。生産年齢人口（16～65歳）が減少する中「無職」の値が減少するという現象からは、従来の働き手像「生産年齢人口の男性」とは異なる、多様な働き手像が浮かび上がる。

他の職業割合が増加の傾向を示す中、1次産業である「農林業」だけは、2.71ポイント下がっていることである。本調査上では、農林業従事者が半数近く減少している。また、パート・アルバイトなどの就業形態が、9.7%から14.4%に増加。約1.5倍になっている。

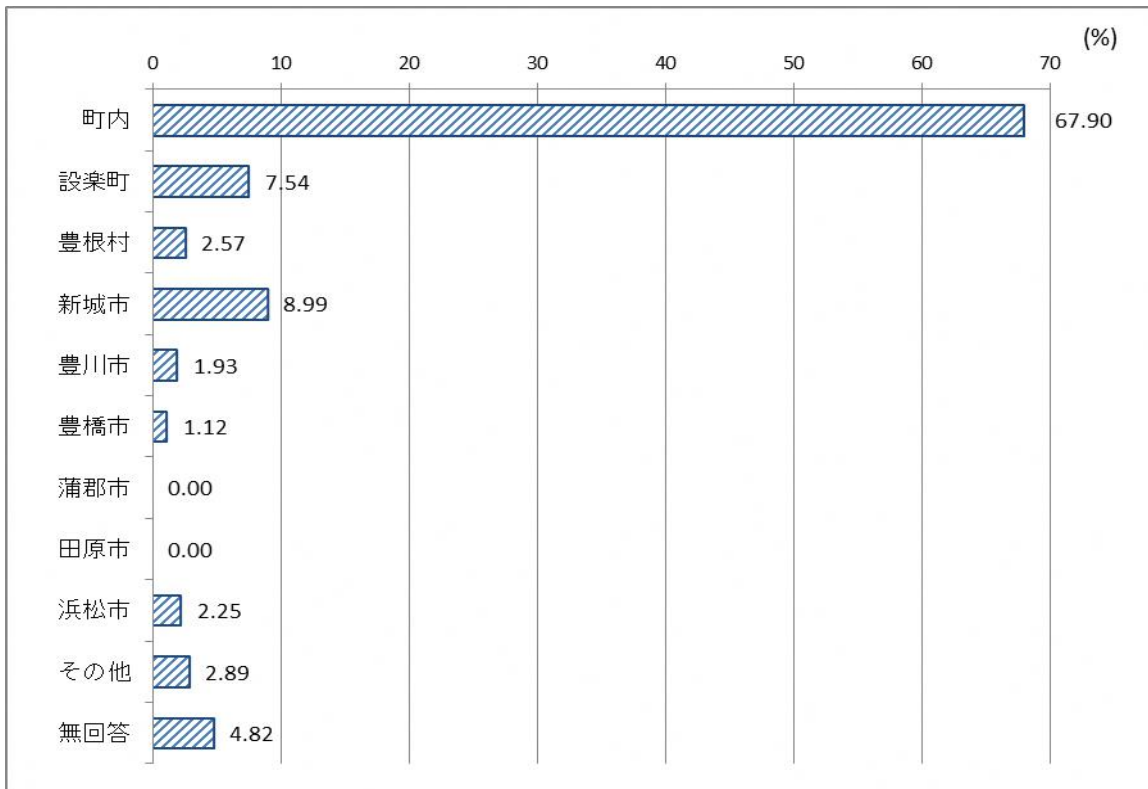
■職業・就労形態



問 4 問 3 で 1～5 と回答した方にお伺いします。あなたが通勤している地域を教えてください。

農林業、観光業、自営業（商工業）、会社員・公務員・団体役員などの勤め人、パートタイマー・アルバイトなどの就労体系をとる人の 70%弱が町内を勤務地としている。これに新城以北の奥三河・浜松を加えた値は、約 90%にのぼる。

■勤務地

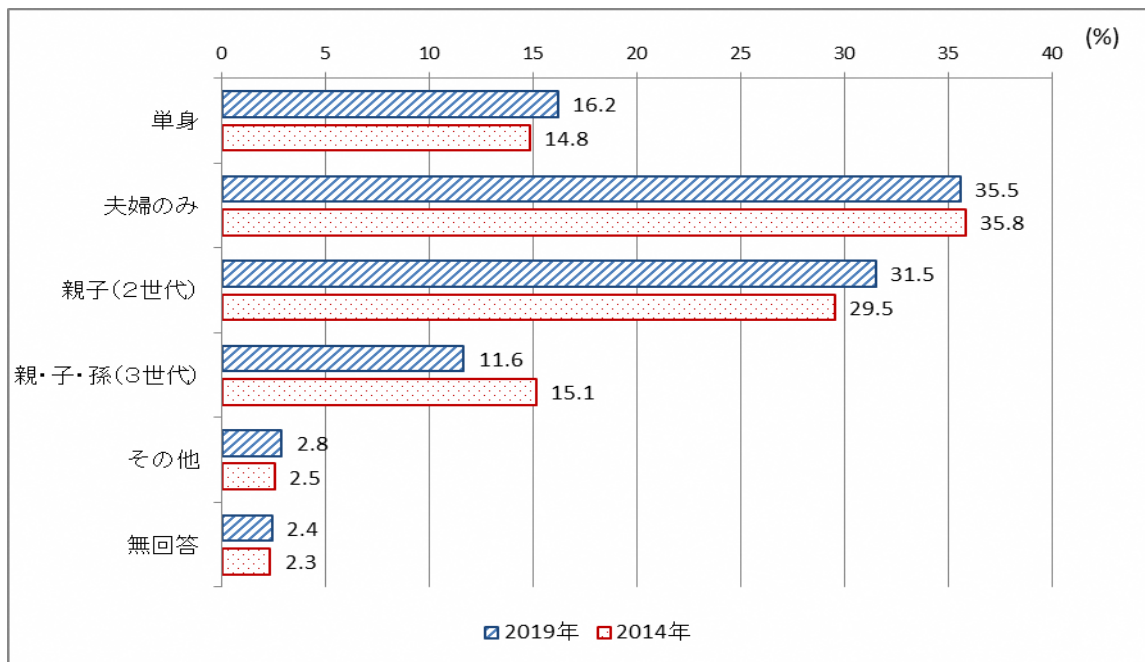


問5 あなたの世帯のタイプを教えてください。

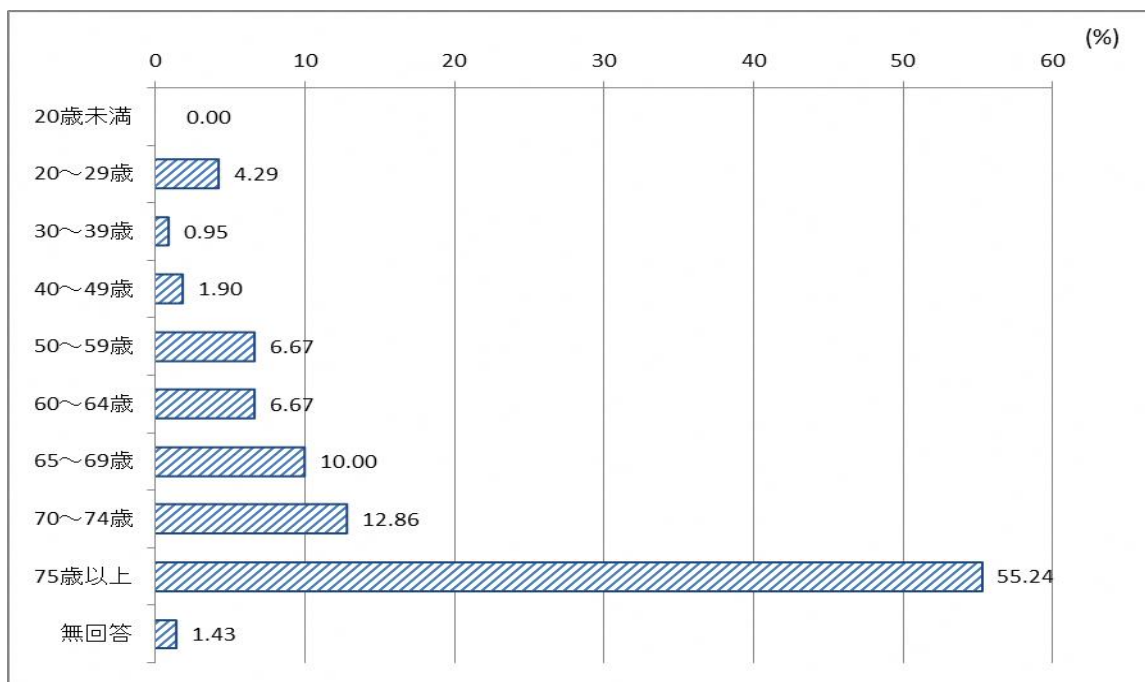
単身世帯は徐々に増加。その内訳は、75歳以上が55.24%と半数以上、65歳以上では78.10%にのぼることから、高齢者の独居世帯は今後さらに増加する可能性がある。

家族構成の変化に伴い、家族・地域が果たす役割が変化してきている。

■世帯の構成



■単身世帯の年代構成

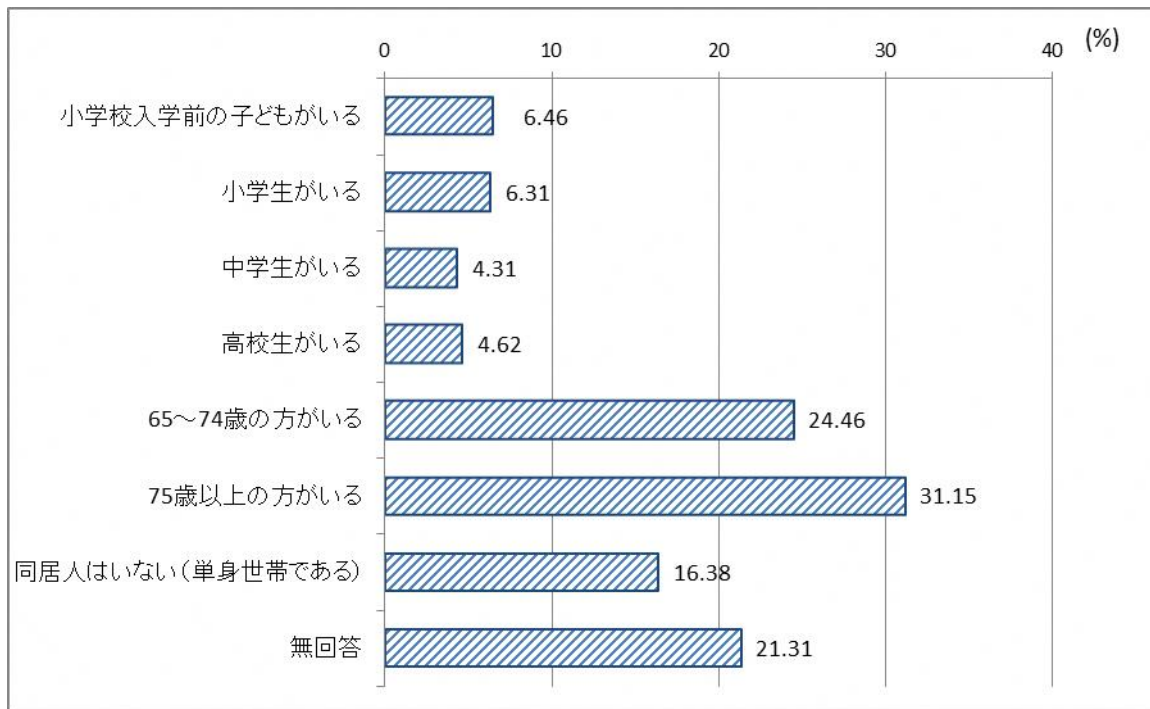


問 6 あなたのお宅にはどのような方が同居されているかを教えてください。
(※あなた自身は含みません)あてはまる番号すべてに○をつけてください。

人口の年齢構成と符合する結果となっている。

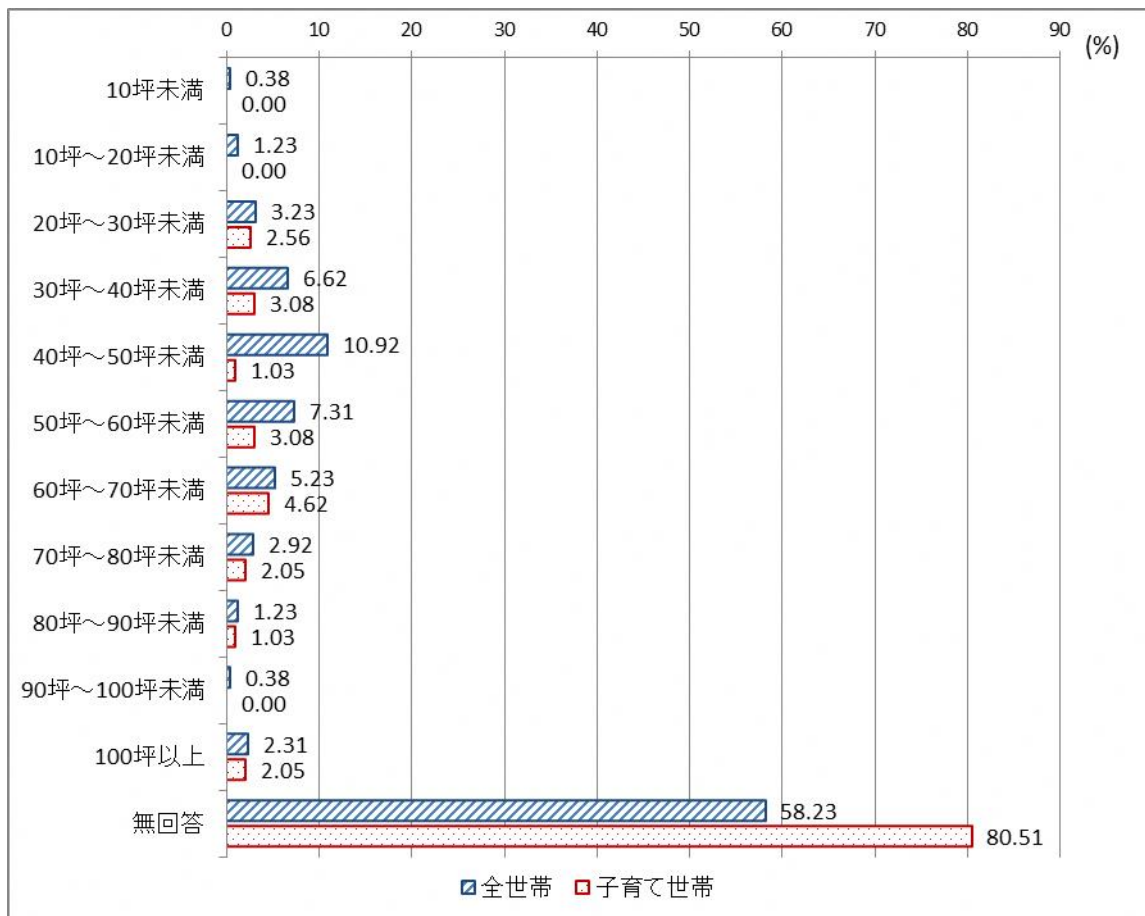
第2章以降のデータを分析するにあたり、各設問と生活との関わりとその意識・評価を確認するための横軸として、このデータを活用することとする。

■同居の家族



問7 あなたのお宅の広さを教えてください。答えやすいものでお答えください。

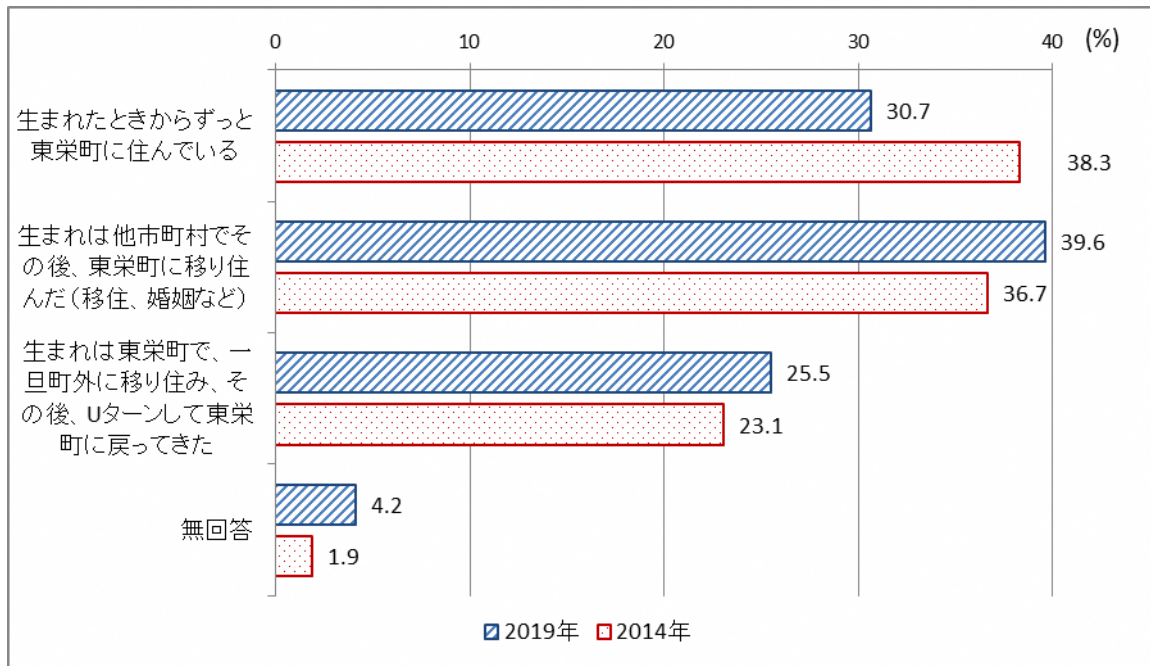
■ 居住する家屋の延べ床面積



問8 あなたはいつから東栄町に住んでいますか。

今回調査で初めて、「生まれてからずっと東栄町に住んでいる」を、「生まれは他市町村（Iターン）」が超える結果となった。Uターンを合わせると、約65%の町民が外の水を飲んだことのある人ということになる。婚姻やUターンによって移動しているケースの方が多くなったことが明らかになった。

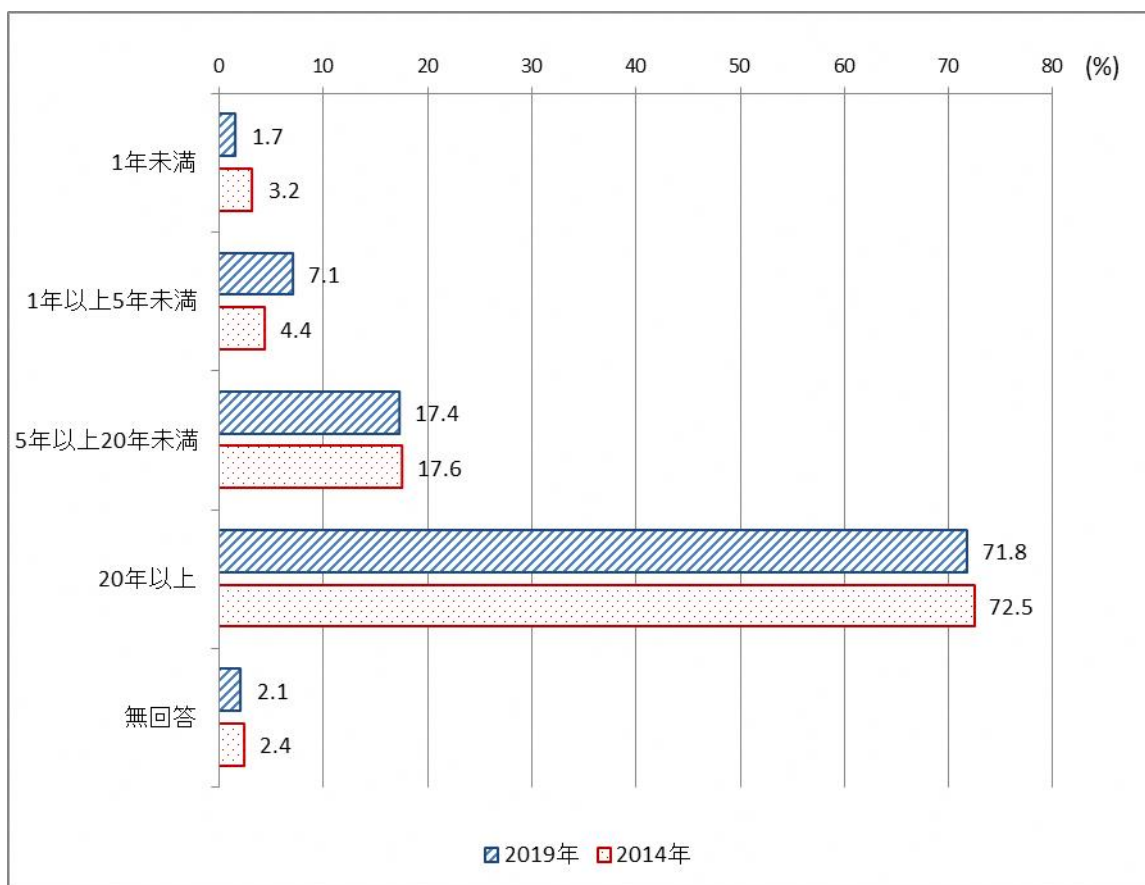
■ 居住歴



問 8 で 2 また 3 に回答した方(生まれたときからずっと東栄町に住んでいる以外の方)へお伺いします。あなたは、東栄町にお住まいになって何年になりますか。
(一時的に町外へ転居した場合は、町内にお住まいの年数の合計)

「居住年数 5 年以上 20 年未満」「20 年以上」の割合が 2019 年度調査において 89.2%、2014 年度調査では 90.1%と、ほぼ同じ値を示している。これに対し、「1 年未満」は 2019 年度 1.7%、2014 年度 3.2%となり 53.1%の減少。「1 年以上 5 年未満」は 2019 年度 7.1%、2014 年度 4.4%となり 161.4%の増加であった。両者のバランスの逆転は、人口動態の変化をあらわすものであり、移住期から定住期への過渡期にある層が拡大していることが分かる。

■ 居住年数



問 10 次の 1～30 までの「目指す町の姿」について、どの程度満足されていますか。各項目に関して、あなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んで、番号に○印をつけてください。

ア 自然・都市基盤・安全についての住民満足度

自然環境に対する評価は「満足」「やや満足」の合計値が、60.5%にのぼる。前回調査と比較すると 7.7 ポイント下がったものの、依然として高い値を示している。

公共交通への評価について、今回調査においては「満足」「やや満足」の合計値が 49.7%と全体の約半数である。また、前回調査と設問が異なる（※）ため単純な比較は難しいが、57.3%から 7.6%低下する結果となった。

地域防災については、「満足」「やや満足」の合計値が 44.9%と、50%を割り込むことになった。平成 26 年の倒木による長時間の停電、道路が封鎖されたことによる集落の孤立や、近年頻発する豪雨など、自然災害による危険を身近に感じる機会が多かったために、住民の災害に対する意識・危機感が高まっているからと分析できる。

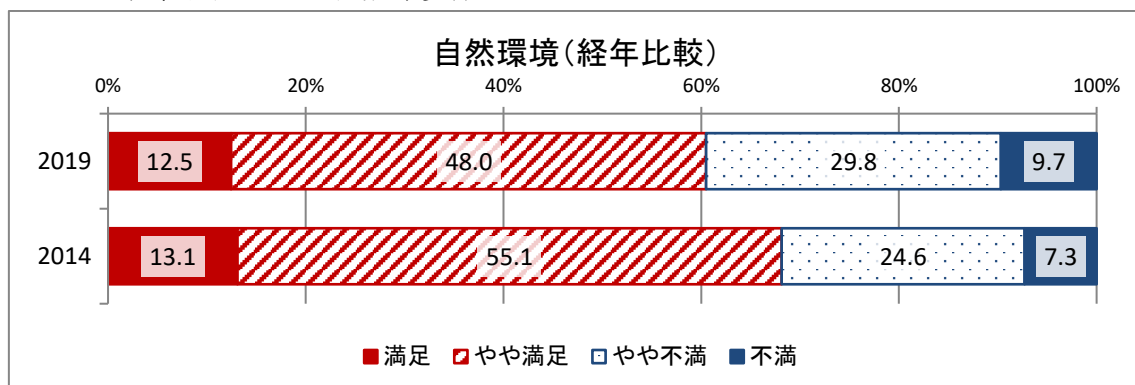
※前回調査と設問が異なる点について

経年比較をするため調査項目は同様としているが、より回答がしやすいように前回調査と問い方を変更している。

①自然環境

2019：山、川などの自然環境が守られている

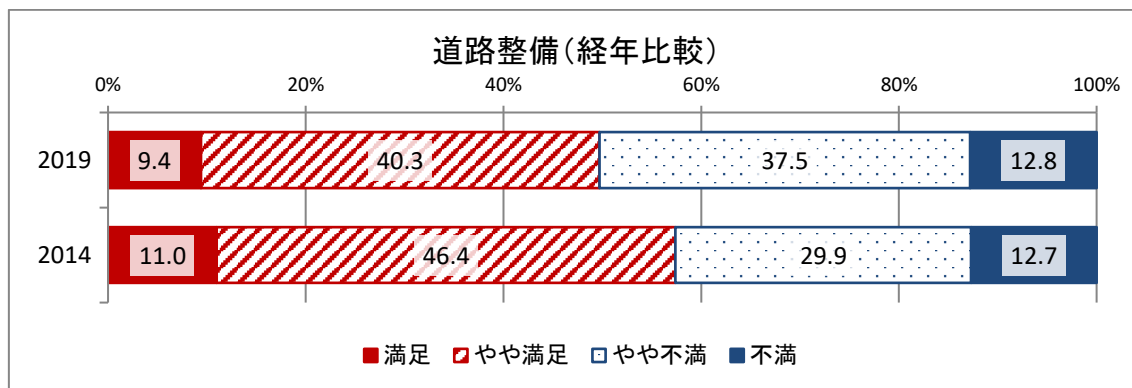
2014：山、河川などの自然環境保全



②道路整備

2019：道路が安全で利用しやすい

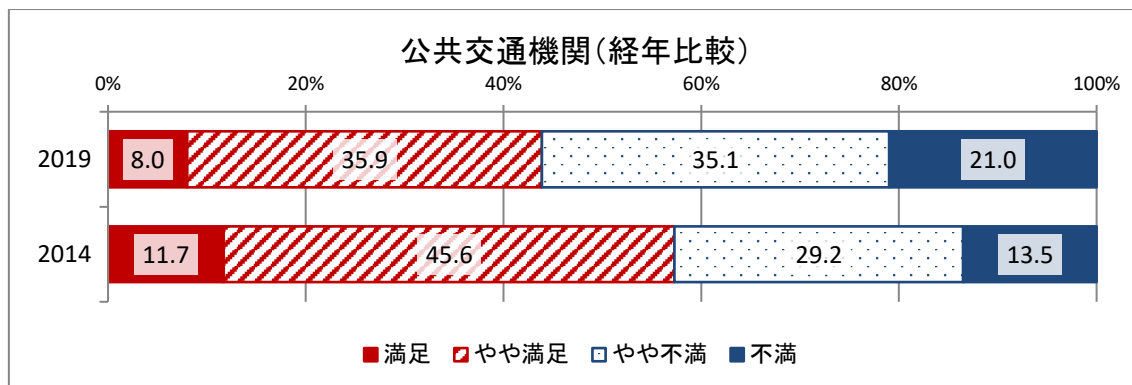
2014：生活道路などの一般道路の整備



③公共交通の整備

2019：バス、電車などの公共交通が利用しやすい

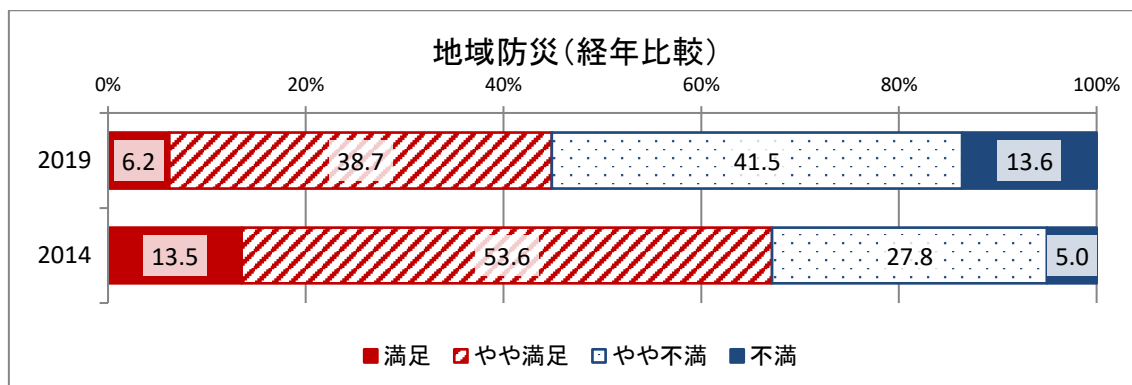
2014：鉄道、バスなどの公共交通の整備



④地域防災

2019：地震や風水害などに対し地域の防災体制が整っている

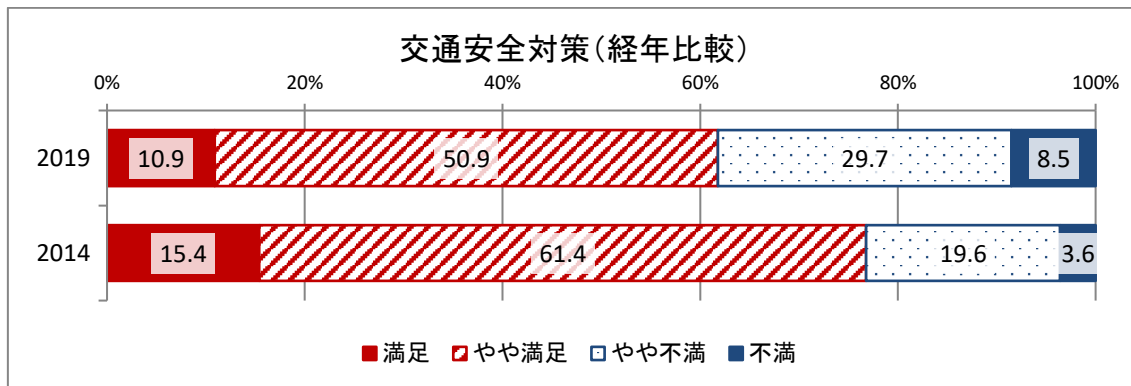
2014：地域の防災体制や防災対策



⑤交通安全

2019：カラー舗装や横断歩道などの交通対策がされている

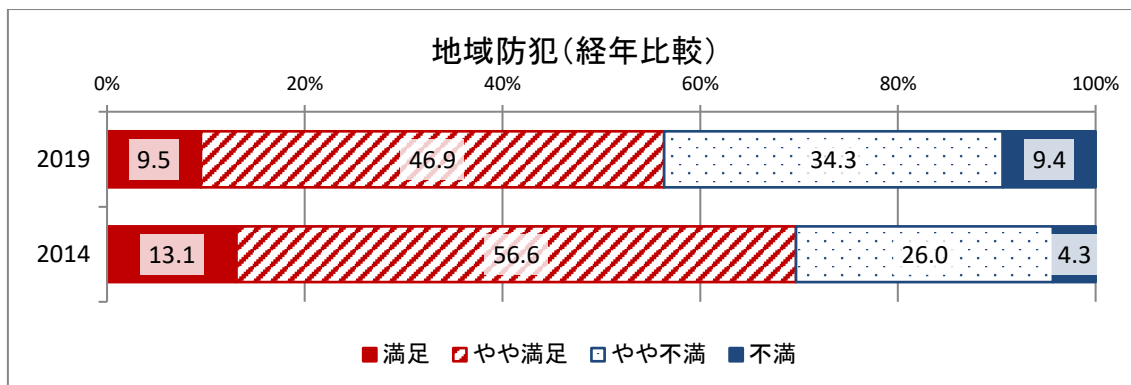
2014：交通安全対策



⑥防犯対策

2019：防犯対策がされており犯罪に合わない町である

2014：防犯対策・消費者相談



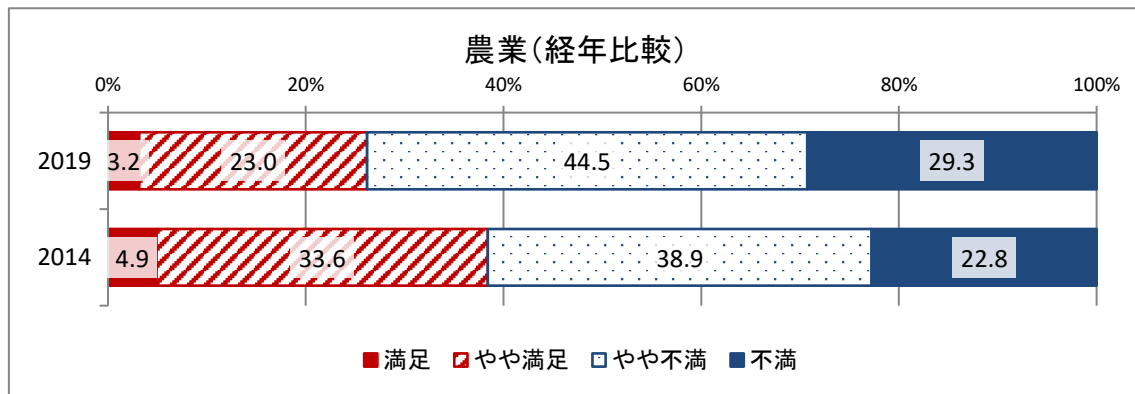
イ 産業・交流についての住民満足度

経済活動についての評価は、農業・林業・漁業・工業・商業・観光業、いずれの分野においても前回調査から下降傾向にある。

⑦農業

2019：遊休農地の活用や鳥獣害対策などにより農業が盛んにおこなわれている

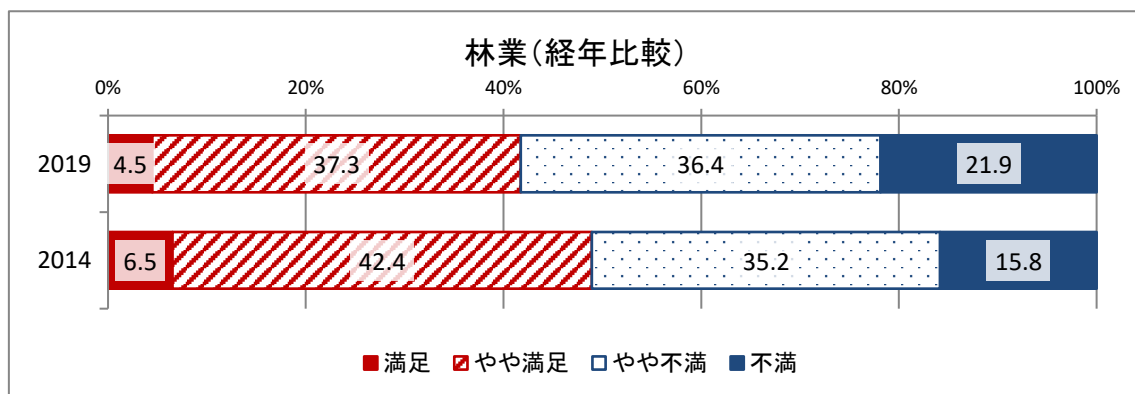
2014：農業振興の施策



⑧林業

2019：林道整備、間伐推進などにより林業が盛んにおこなわれている

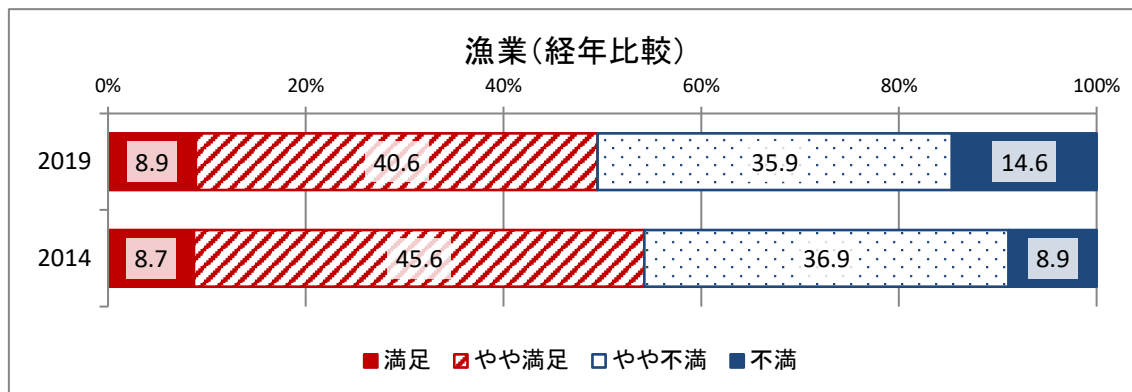
2014：林業振興の施策



⑨漁業

2019：稚鮎の放流や育成、河川環境整備などにより漁業が盛んにおこなわれている

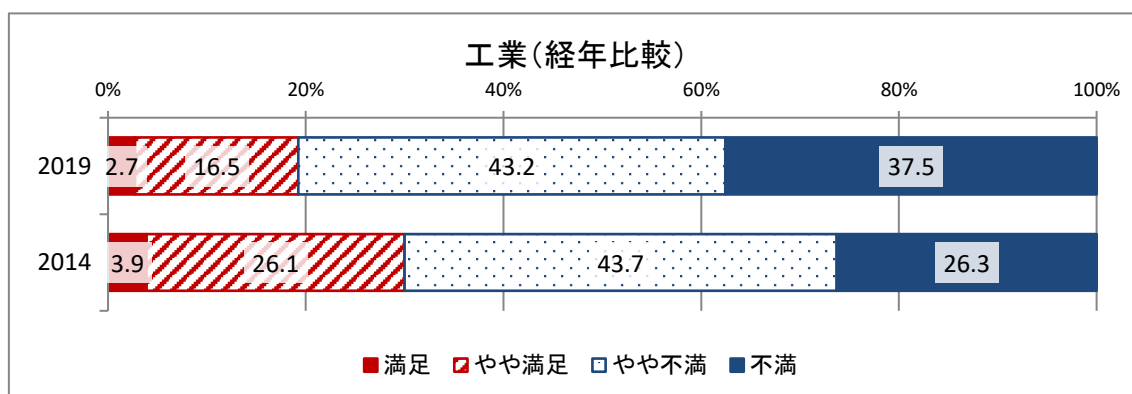
2014：漁業振興の施策



⑩工業振興・企業立地

2019：企業の存続支援など工業が盛んにおこなわれている

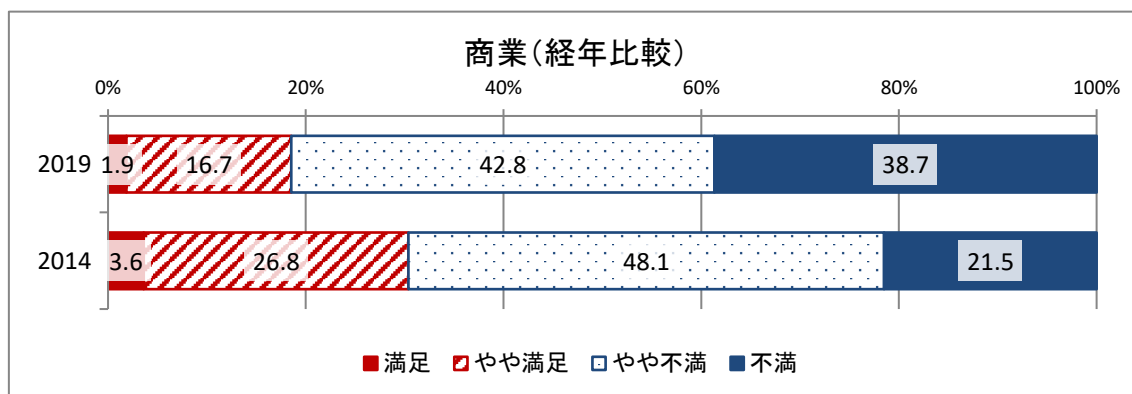
2014：工業振興・企業立地の施策



⑪商業・商店街振興

2019：日常生活に必要な買い物ができるなど商業が盛んにおこなわれている

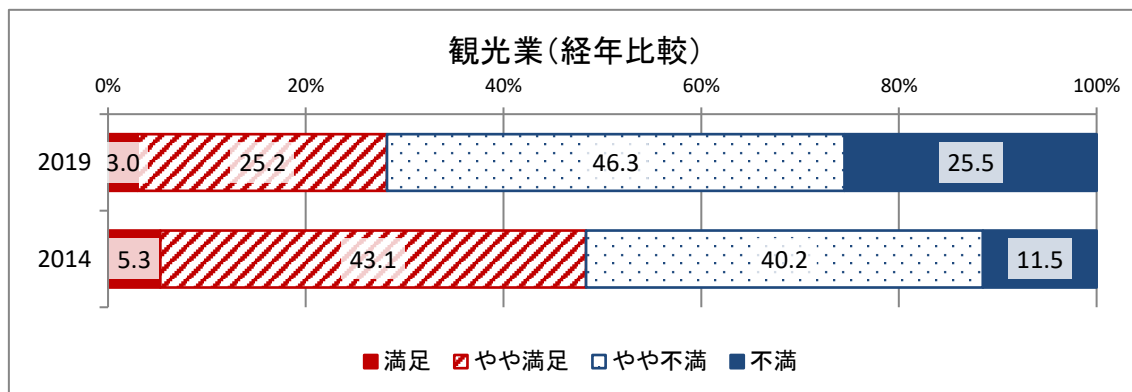
2014：商業・商店街振興の施策



⑫観光

2019：多くの人を訪れるなど観光が盛んにおこなわれている

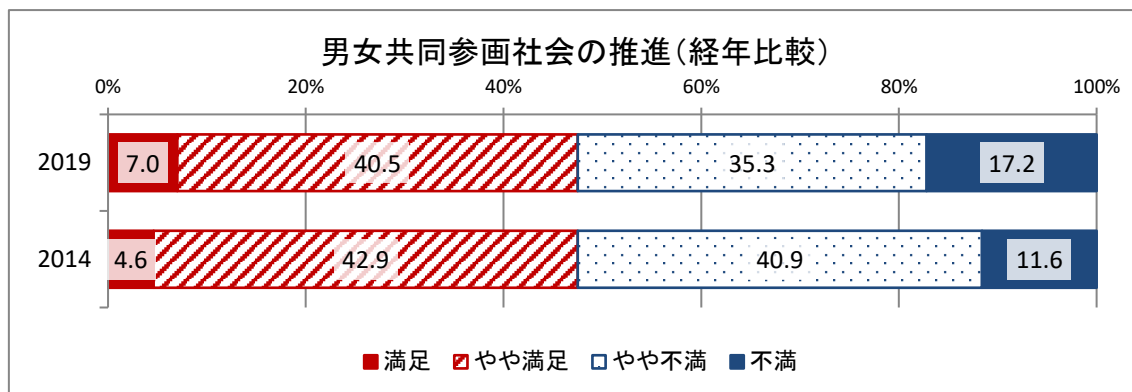
2014：観光振興の施策



⑬男女共同参画

2019：男性も女性も対等に活躍できる町である

2014：男女があらゆる分野で対等に活躍できる社会づくり



ウ 医療・健康・福祉について

医療体制・障がい者福祉の項目を除いては、「満足」「やや満足」の割合が50%を超えている。総じて満足度が高いものの、前回調査との比較においてはいずれも評価を下げる結果となった。

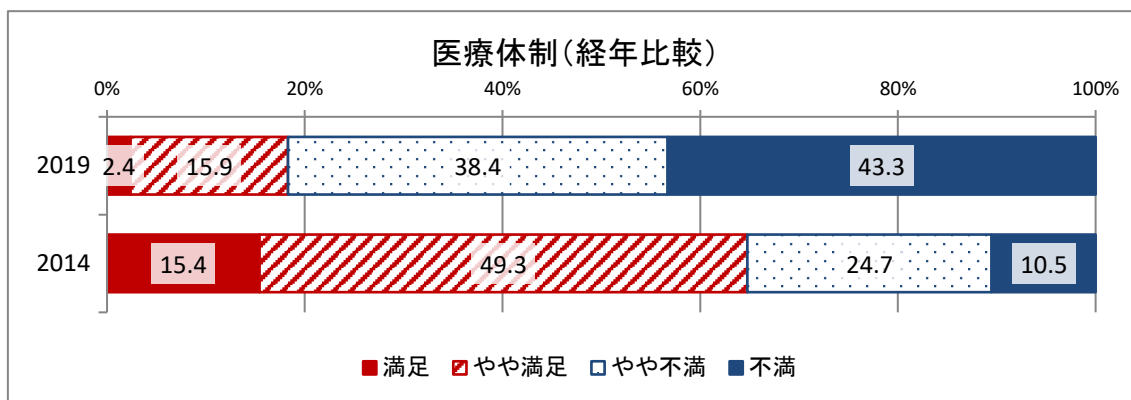
医療体制については、「満足」「やや満足」の合計値が、前回（2014年）の64.7%に対し今回は18.3%と46.4ポイント低下、障がいのある人の暮らしについては、前回調査の64.3%に対し今回は47.4%と16.9ポイント低下し、共に50.0%を割り込んだ。

一方、「子育て」「保育所・保育サービス」についての評価は、前回比微減であり、ほぼ前回並みの満足度を維持している。調査対象者全体においてもサービスを直接享受している子育て世帯に絞った分析においても、60%を超える高い評価である。

⑭地域医療

2019：安心して暮らすための医療体制が整っている

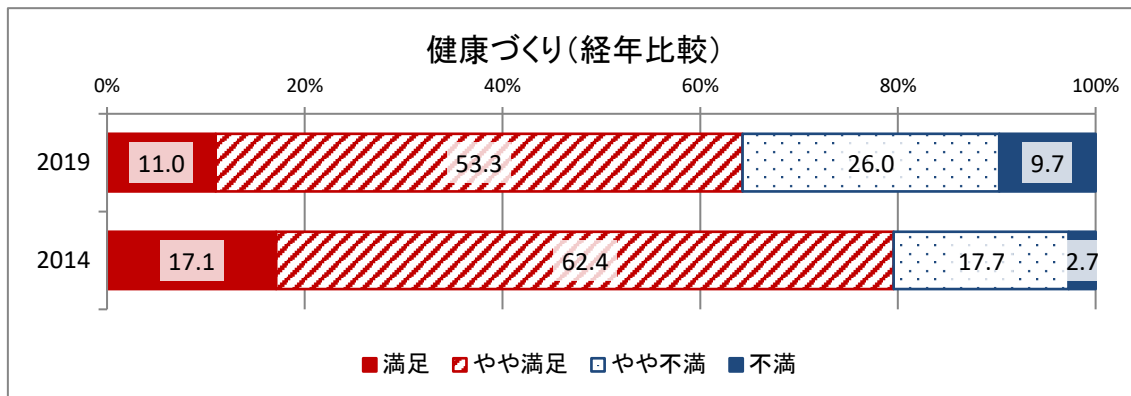
2014：地域医療・救急医療対策



⑮健康づくり

2019：健康診査や健康指導などの取り組みにより健康に暮らせている

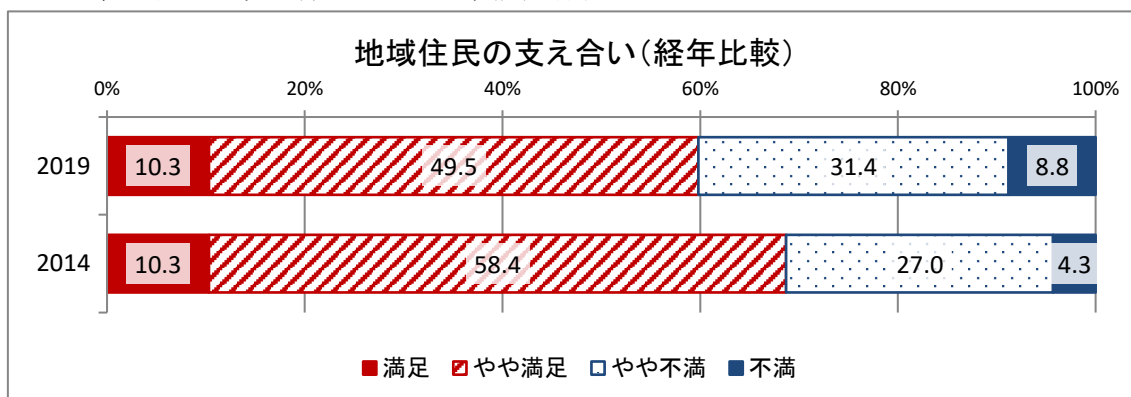
2014：健康づくり・病気予防対策



⑯住民同士の助け合い

2019：地域で住民同士の助け合いや支え合いが行われている

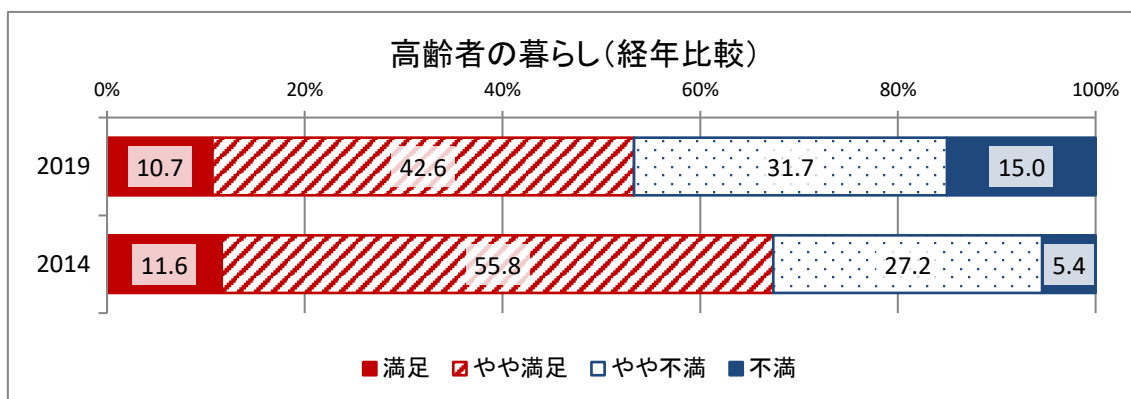
2014：住民同士の助け合いによる地域福祉活動



⑰高齢者福祉

2019：高齢者も地域で安心した暮らしができています

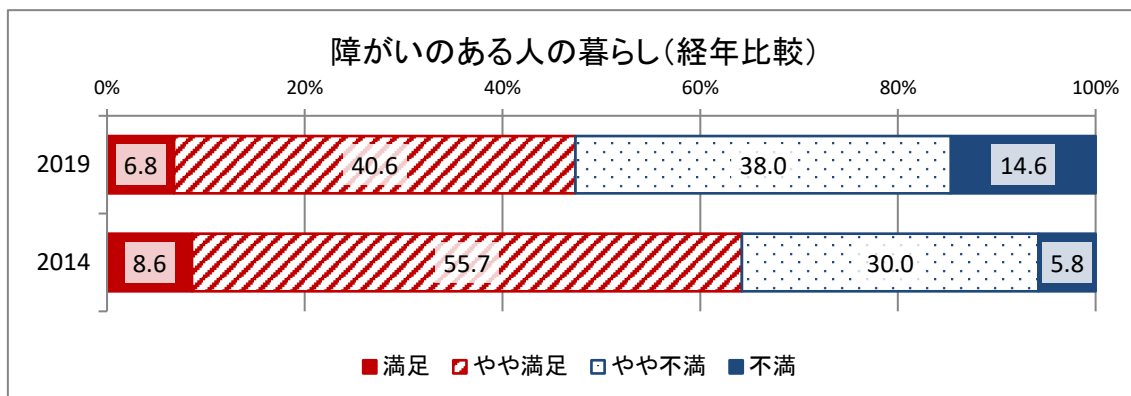
2014：介護保険サービスなど高齢者の福祉施策



⑱障がいのある人の暮らし

2019：障がいのある人も地域で安心した暮らしができています

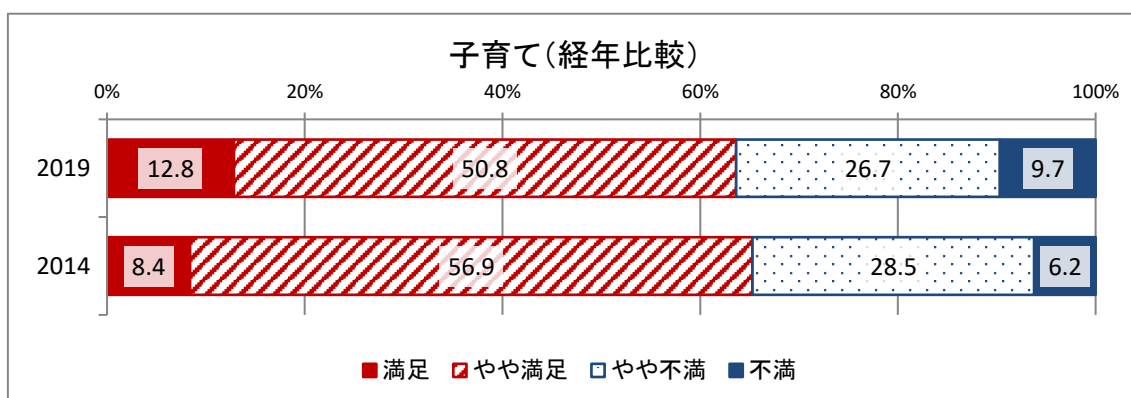
2014：障がい者（児）への福祉施策



⑲子育て環境

2019：安心して子育てができています

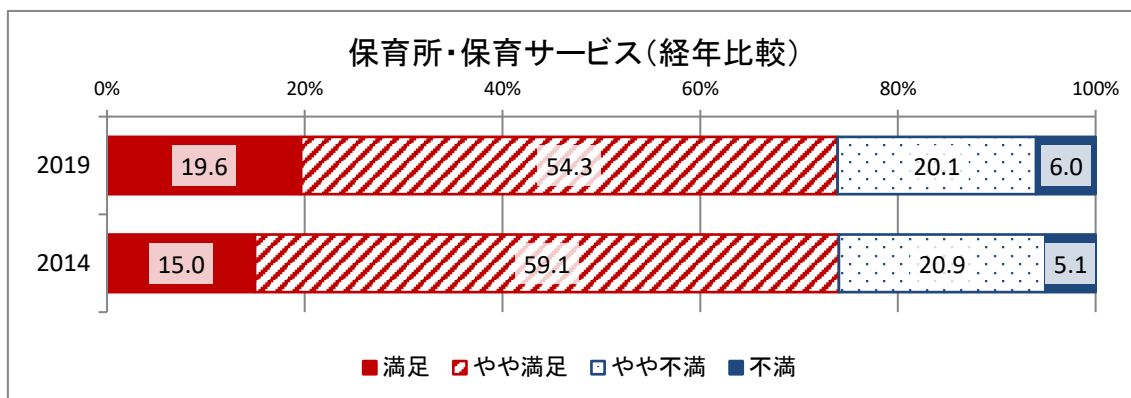
2014：子育てへの支援



⑳子育て施策

2019：保育所や保育サービスはどの乳幼児へのサービスが充実している

2014：保育所や保育サービス



エ 教育・文化について

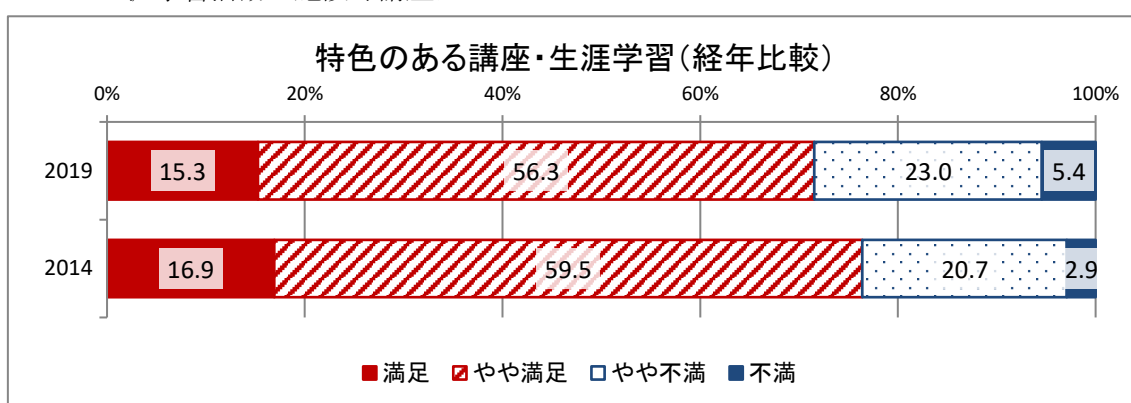
将来を担う人材を育成する事業についての評価は概ね高い。

この分野において、国際交流だけが「満足」「やや満足」を合わせた値が 34.9%となっているが、子育て世帯を対象を絞ると 70.9%と倍以上の満足度となった。

㉑生涯学習

2019：特色ある講座の開催により生涯学習の機会がある

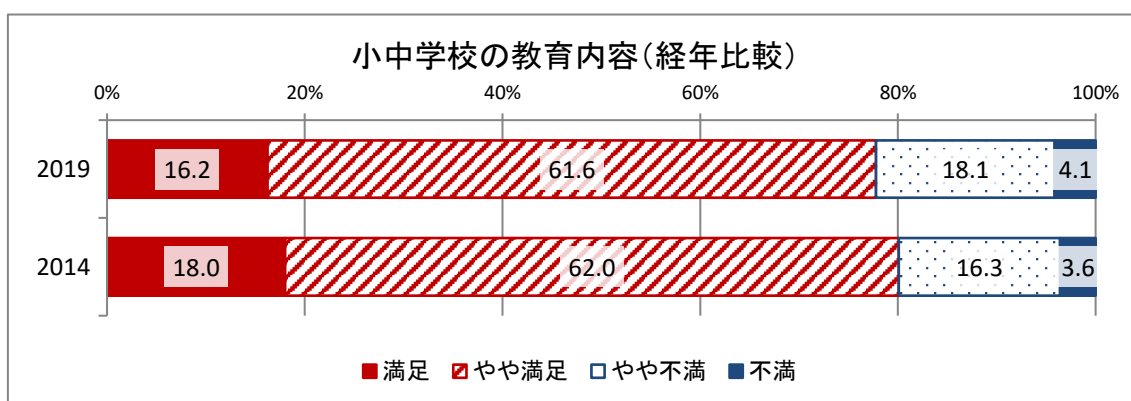
2014：生涯学習活動の施設や講座メニュー



㉒学校教育

2019：小中学校の教育内容が充実している

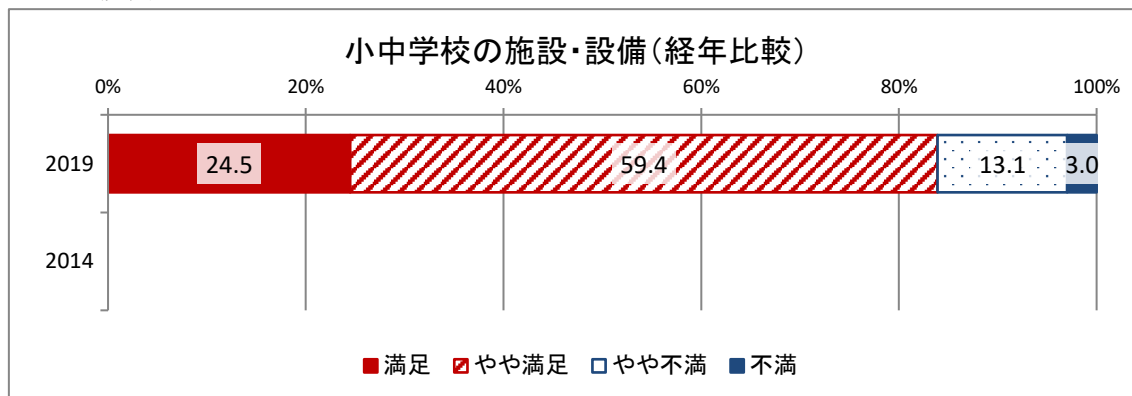
2014：小中学校の教育内容



㊸学校施設の整備

2019：小中学校の施設や設備が適切に整備されている

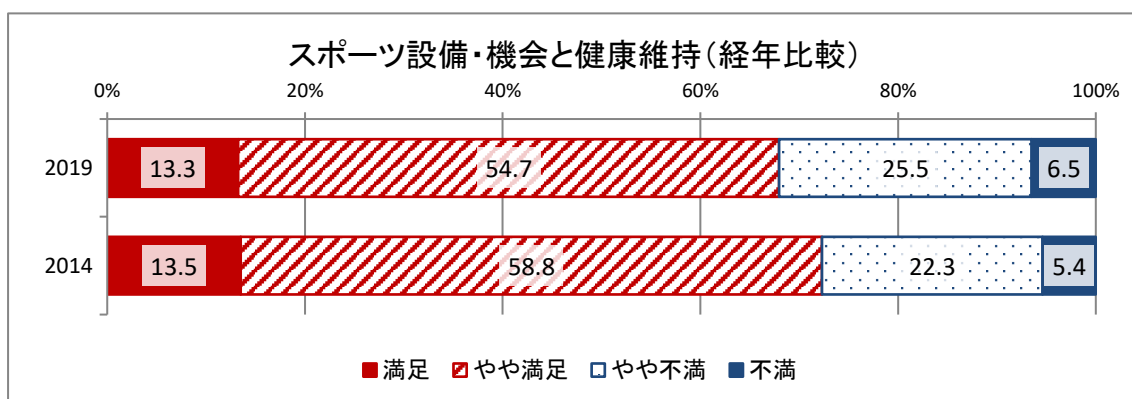
2014：設問なし



㊸スポーツ振興

2019：スポーツをする施設や機会があり体力向上や健康維持ができています

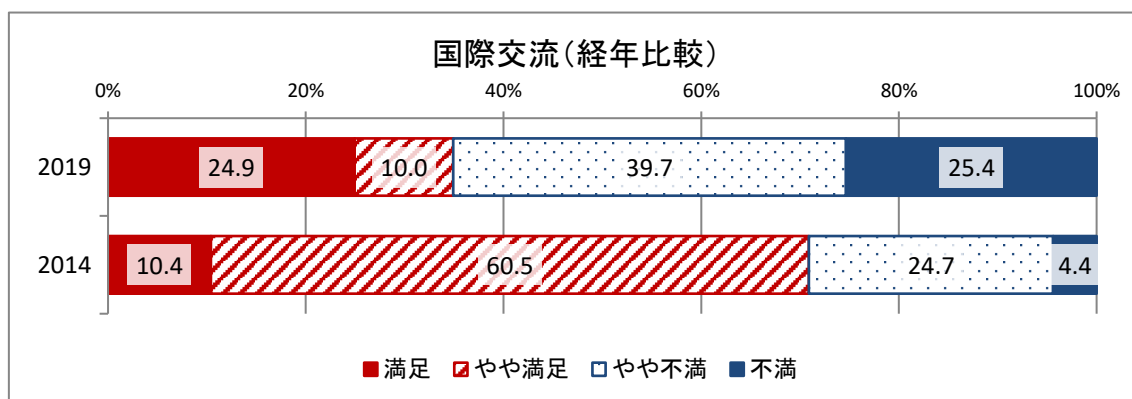
2014：スポーツ振興、スポーツ施設



㊸国際交流・多文化共生

2019：外国人との交流や海外の生活文化に触れる機会がある

2014：国際交流・多文化共生



オ 地域自治・行政運営について

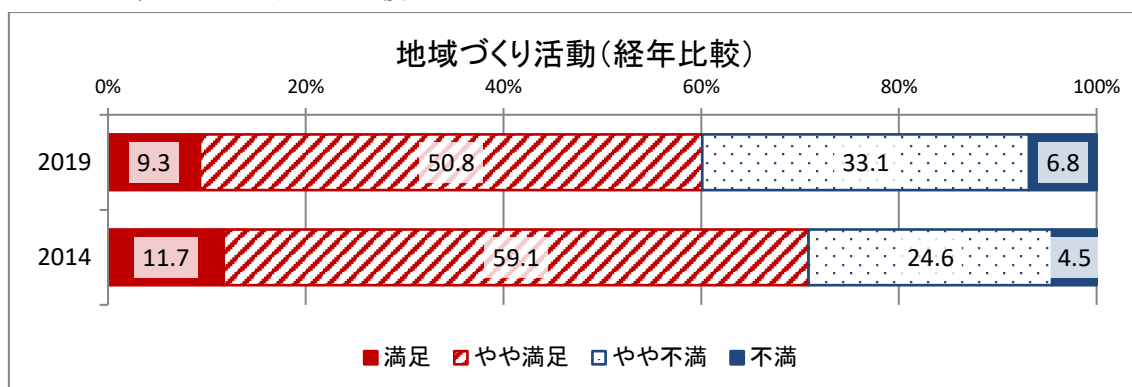
協働によるまちづくりについての住民の評価は、「満足」「やや満足」を合わせた5項目の平均が55.8%となっている。相対的に見ると、NPO・ボランティア活動の49.8%、町の人的資源・資産の使われ方44.7%の2項目がやや低くなっている。

前回調査との比較においては、「地域づくり活動」の分野で70.8%から61.1%へ9.7ポイント低下、「町の情報」が75.3%から61.0%へ14.3ポイント低下、「町の財政・運営」は56.3%から44.7%へ11.6ポイント低下、「行政サービス対応」は71.8%から63.5%へ8.3ポイント低下している。

㊸地域づくり

2019：地域づくり活動が盛んに行われている

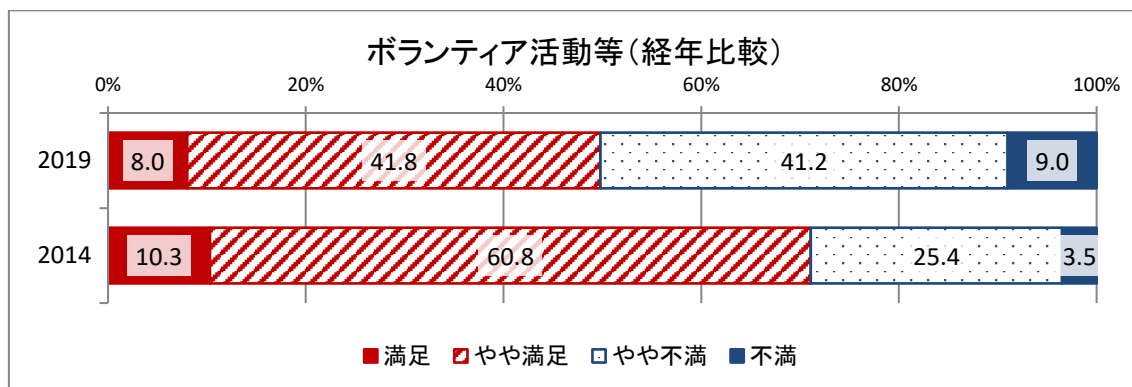
2014：地域づくり活動への支援



㊹ボランティア活動

2019：NPO やボランティア活動が盛んに行われている

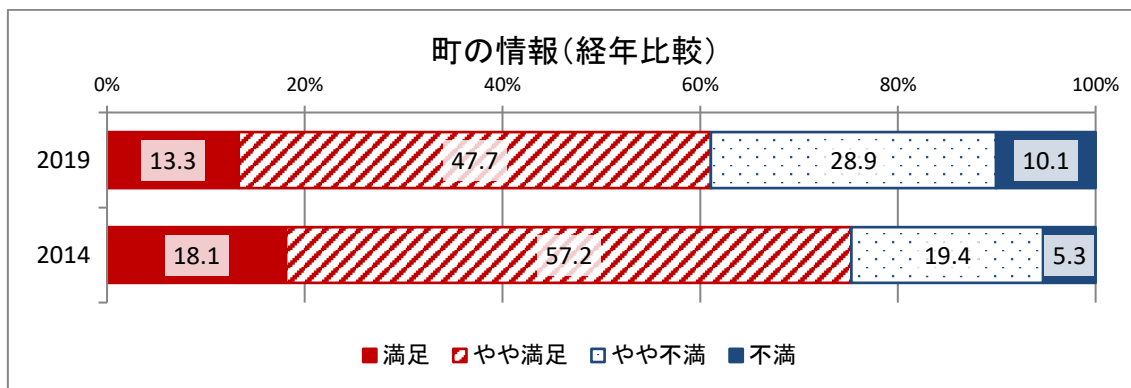
2014：NPO・ボランティアへの活動支援



㊸町の情報

2019：町の情報が入手しやすい

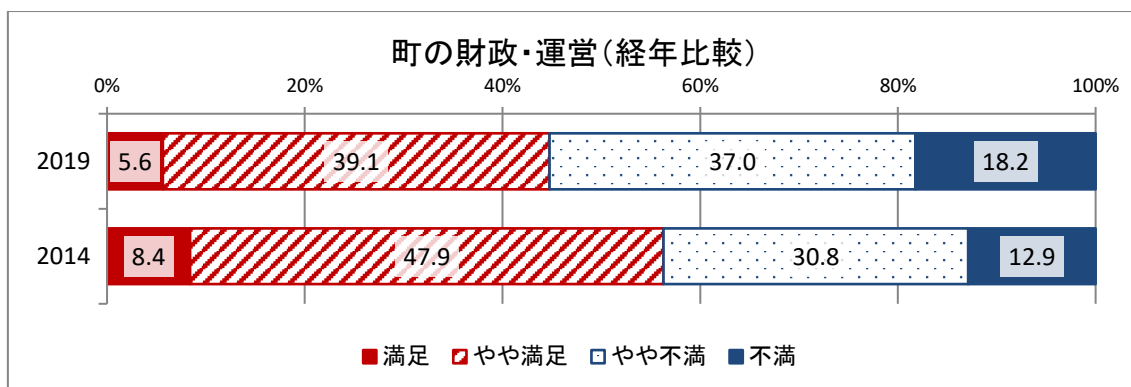
2014：町の広報や情報公開



㊸行財政運営

2019：適切に町の人員・予算・資産が使われている

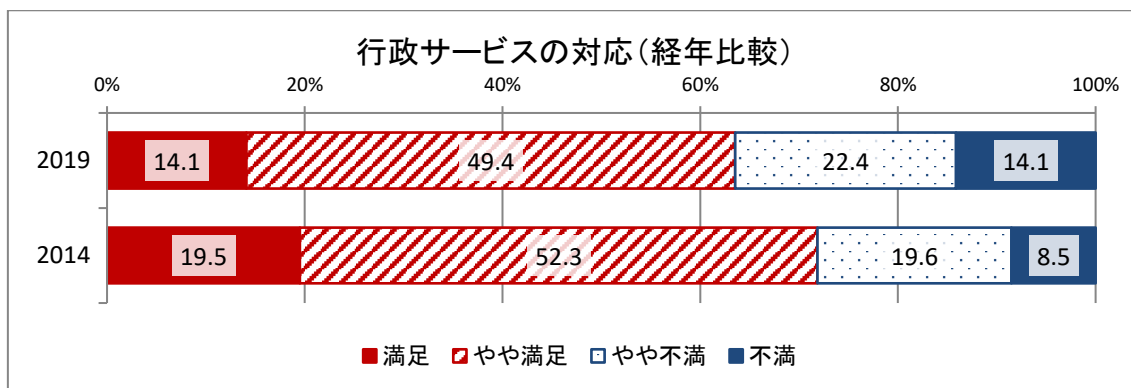
2014：効率的な行政や財政の運営



㊸行政サービス

2019：役場の窓口などの行政サービスの対応

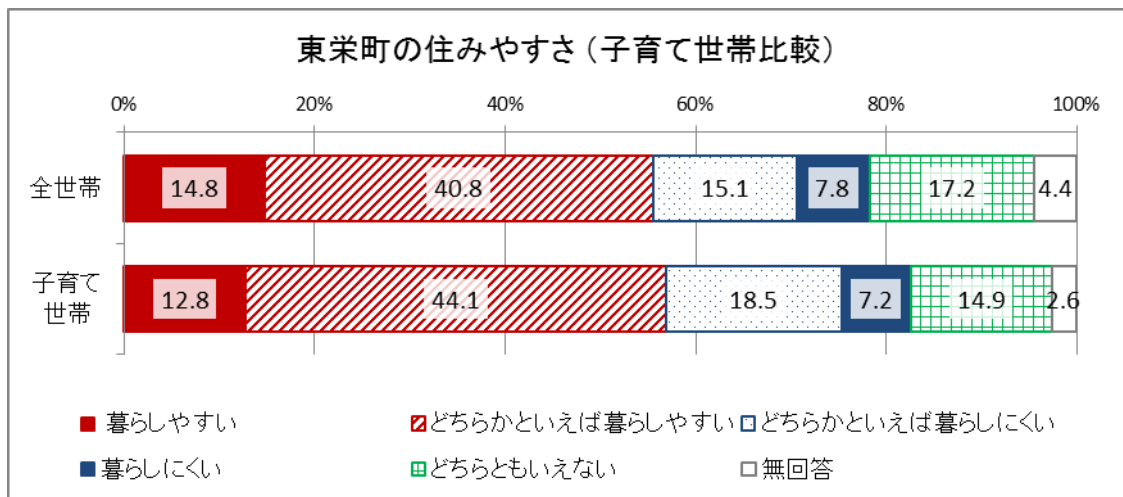
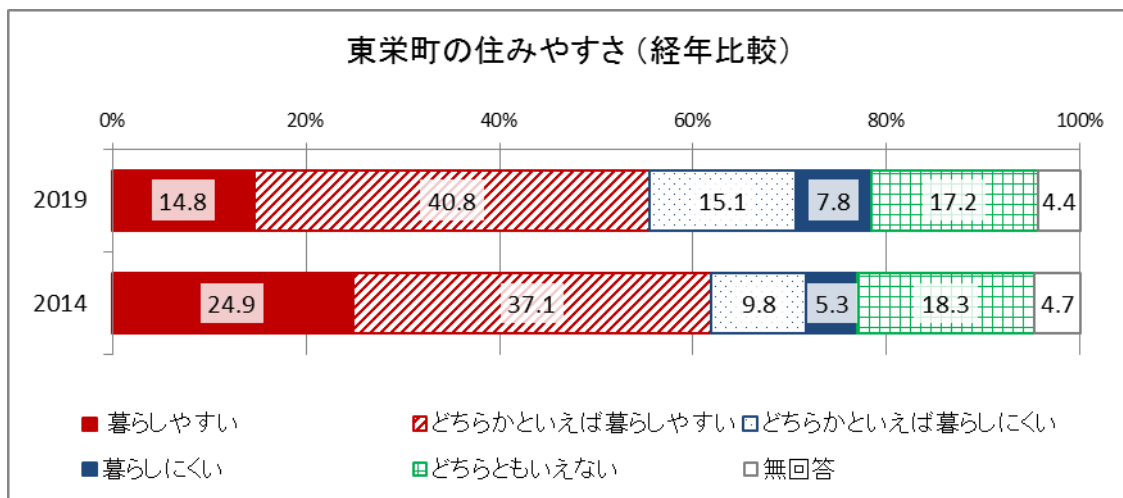
2014：役場の窓口などの行政サービス・職員対応



問 11 あなたは、東栄町は暮らしやすいと思いますか。

「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」と答えた人の割合は、55.6%にのぼる。子育て世帯を対象を絞った場合には56.9%となり、ほぼ同様の結果を示している。

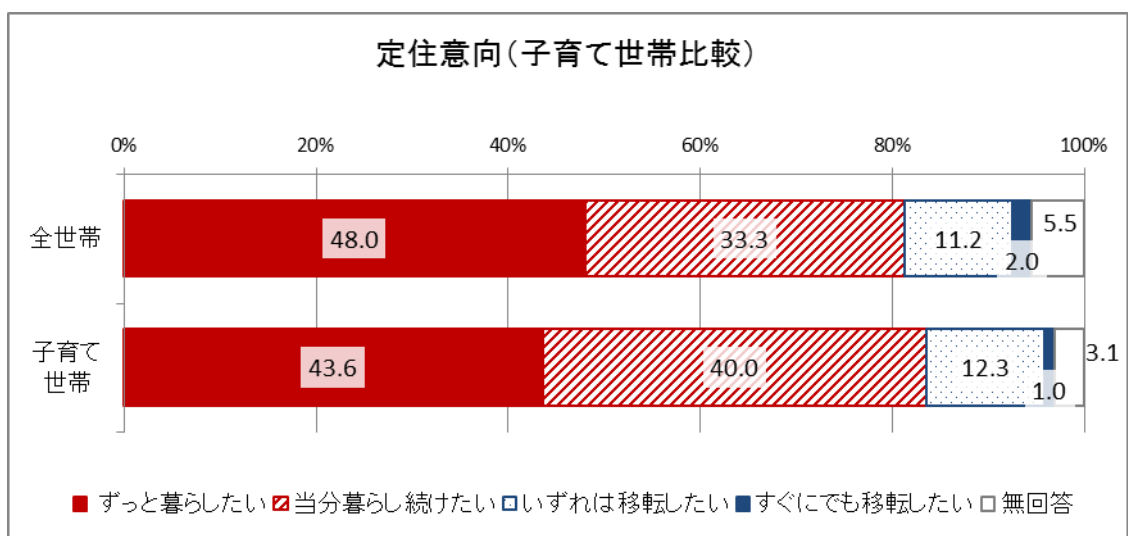
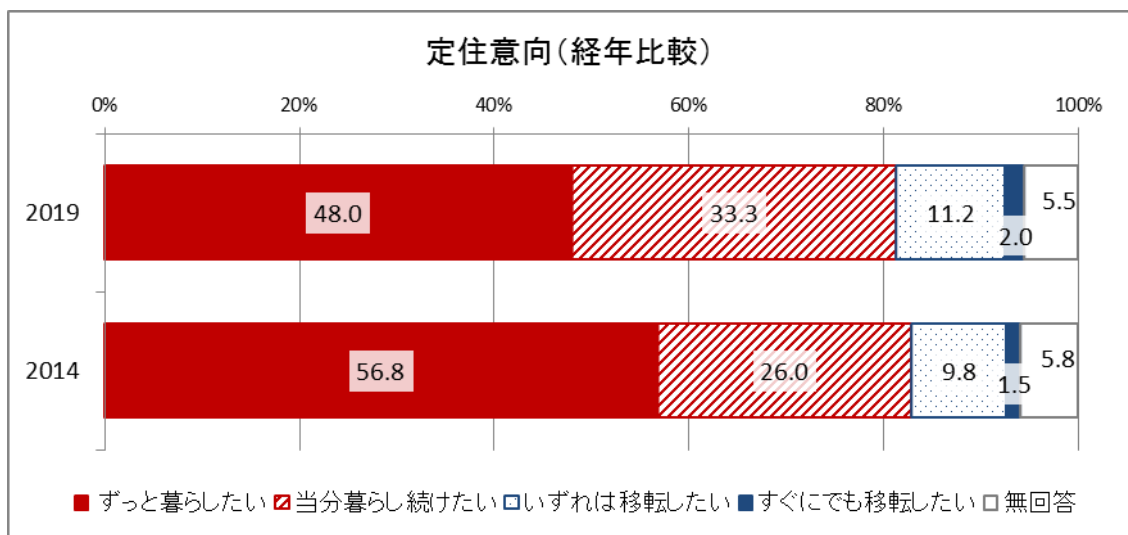
前回調査と比較すると、6.4ポイントのマイナスとなり、緩やかではあるが暮らしやすいと感じる人の割合は減少しつつある。



問 12 あなたは、これからも東栄町で暮らしたいと思いますか。

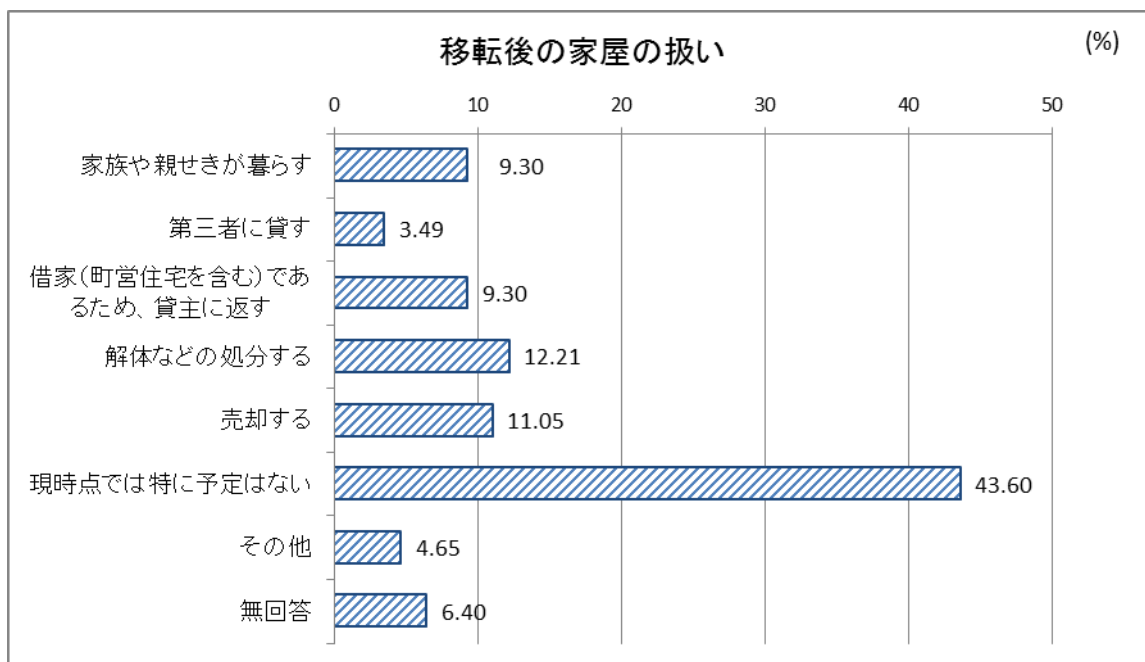
東栄町に「ずっと暮らしたい」又は「当分暮らし続けたい」と考える人は、81.31%にのぼる。前回調査からの変化は極めて小さいが、より積極的な回答である「ずっと暮らしたい」の割合が、8.8ポイント下がり、暫定的な意味合いの「当分暮らし続けたい」の割合が7.3ポイント上がっていることが特徴。

子育て世帯と全回答との差もほとんどないが、より積極的な回答である「ずっと暮らしたい」の割合が、子育て世帯では4.4ポイント下がり、「当分暮らし続けたい」の割合が6.7ポイント上がっている。



問 12 で 3（いずれは移転したい）又は 4（すぐにでも移転したい）と回答した方にお伺いします。移転した場合に、現在暮らしている家はどうされる予定ですか。

移転を希望する人の半数弱は、転出後の家屋の扱いについてプランを持っていない。一方、「第三者に貸す」3.49%、「売却する」11.05%、合わせての14.54%にのぼる物件については、不動産市場での流通を期待することができる。



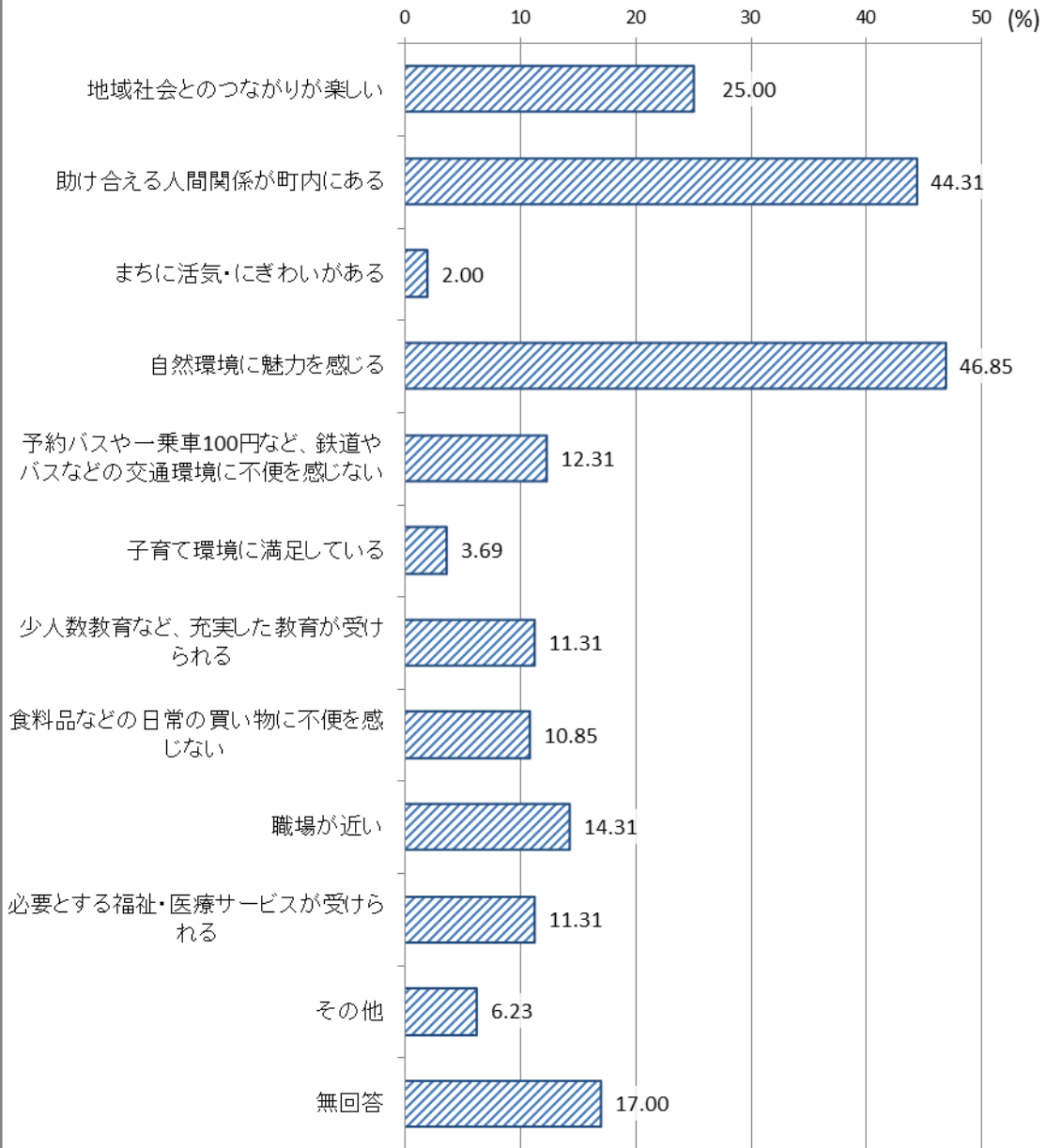
問 14 あなたが東栄町で暮らしやすいと感じる点は何ですか。あなたのお考えに近いものを3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

問 15 あなたが東栄町で暮らしにくいと感じる点は何ですか。あなたのお考えに近いものを3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

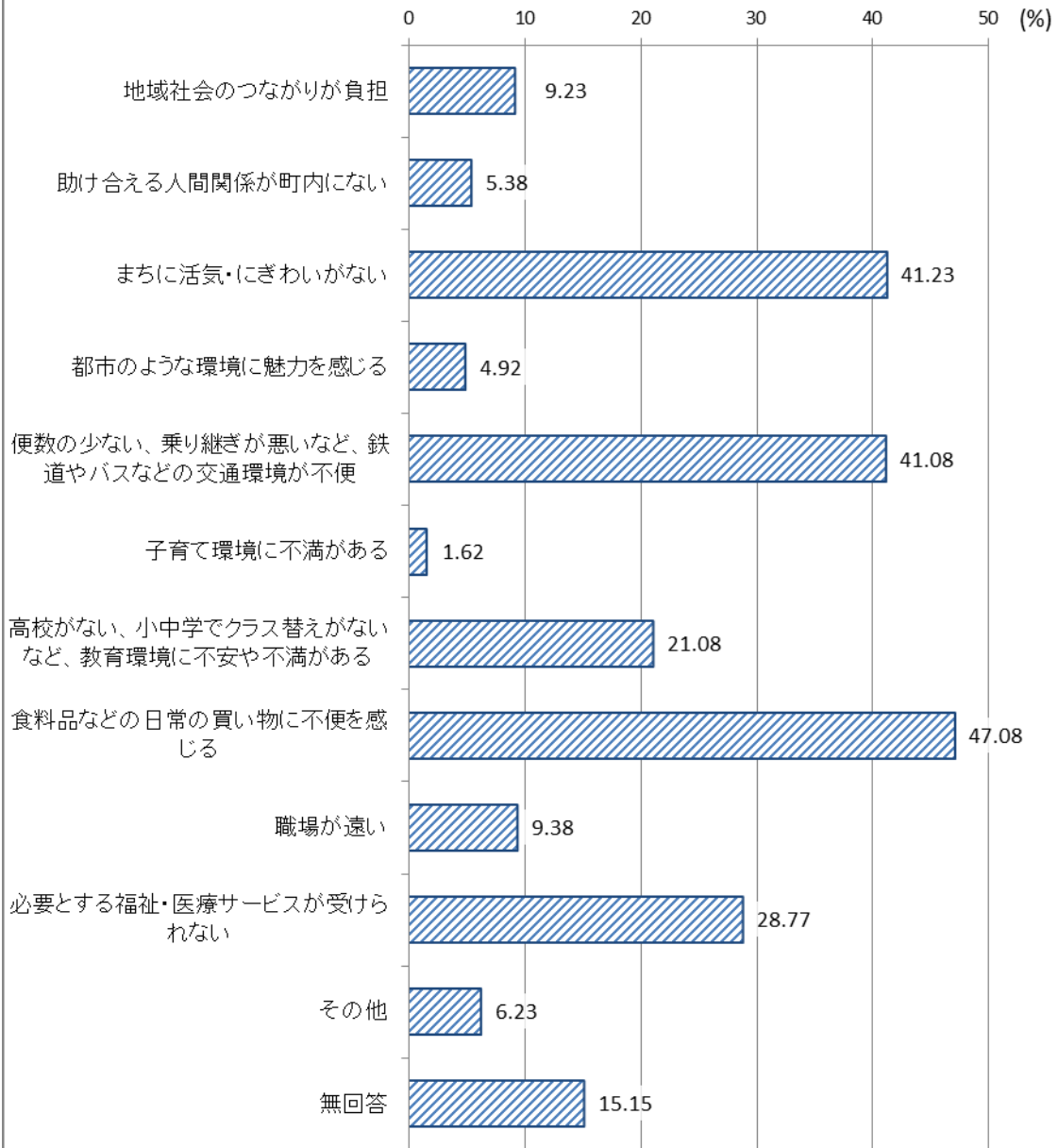
暮らしにくいと感じる点としては、買い物の不便さが 47.08%として最も高く、次にまちの活気・にぎわいが 41.23%、公共交通の不便さが 41.08%となっている。この3つに続き、福祉・医療などのサービスの不自由さが 28.77%という結果になった。

その一方で、暮らしを豊かにするものとして、自然環境が 46.85%、次に地域の助け合える人間関係が 44.31%として突出している。次に地域社会とのつながりが 25.00%となった。

暮らしやすいと感じる点



暮らしにくいと感じる点



16 子育て支援

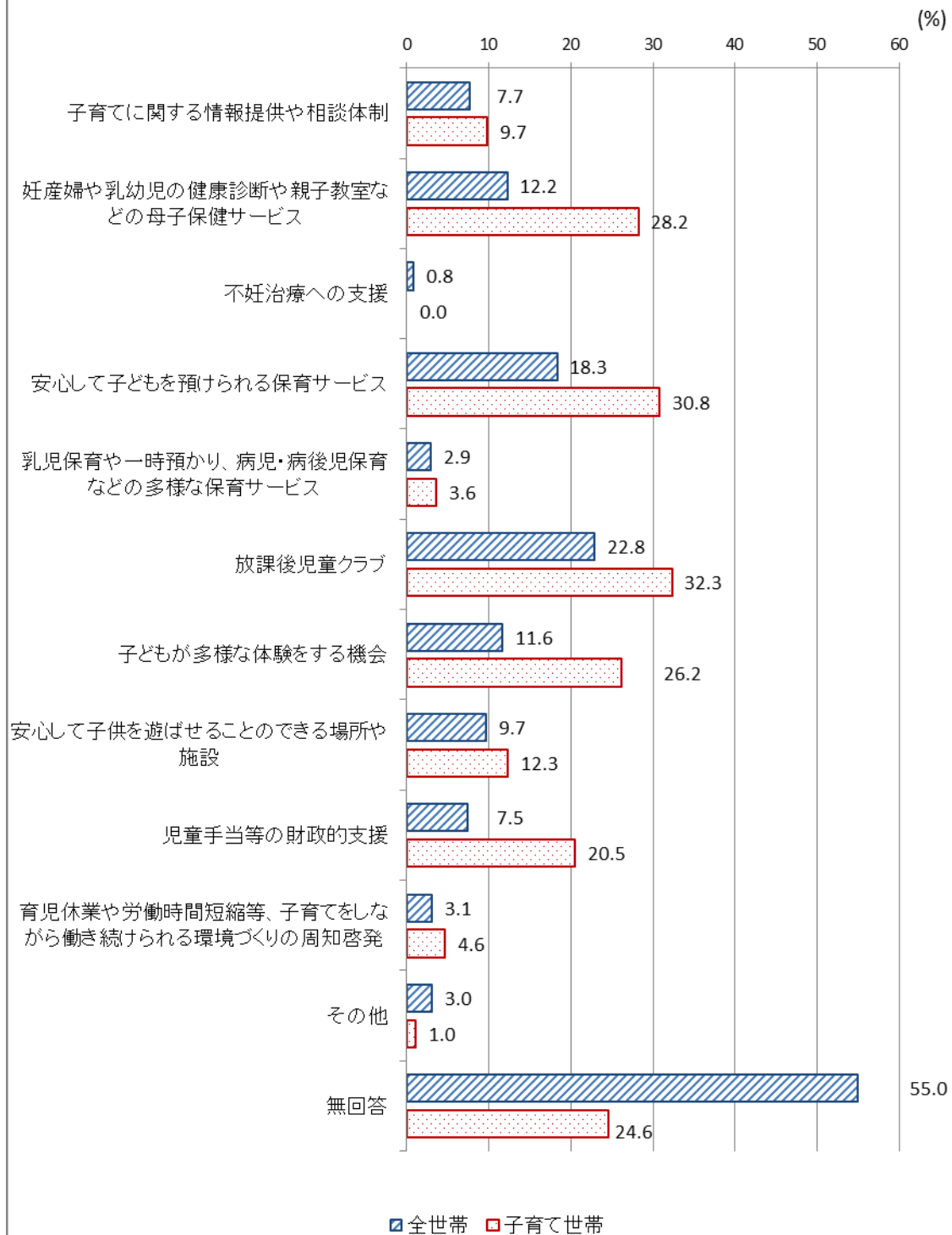
あなたは、東栄町の子育て環境についてどのように感じていますか。満足している点
問 16 と改善して欲しい点について、あなたのお考えに近いものを3つまで選んで、番号に
○印をつけてください。

回答者の評価の傾向を確認すると、母子保健サービス・保育サービス・放課後児童クラブなど、需要が安定している常設型の制度については、一定の評価を得られている。一方、一時預かりや病児病後児保育のような緊急性が高いがニーズの予測を立てられないサービスについては、厳しい評価となっている。支援体制の整備が困難な状況を反映していると考えられる。

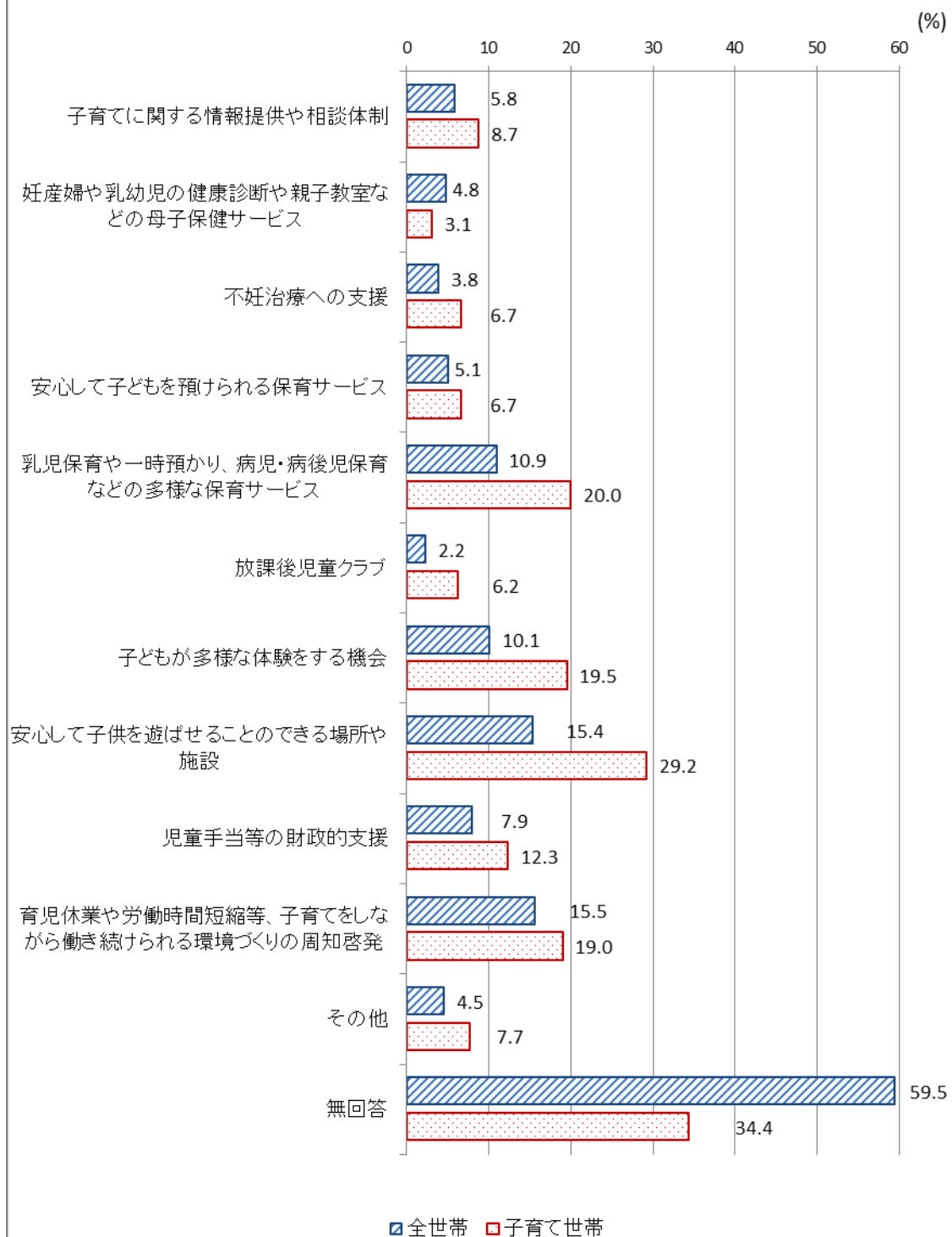
子どもを遊ばせられる施設・場所についての要望は総じて高めである。他の調査でも関心の高い項目であり、子育て世代にとっては身近で優先順位の高い要望になっている。

また、育児休業や労働時間短縮といった、就労と子育ての両立の支援についても満足度が低く改善要求度が高い。制度の整備だけでなく、職場や家庭の支援がカギになる事項であり、世代・立場を超えた理解が必要になる。しかしながら、無回答率は全回答者の半数以上にのぼり、他の設問と比較して突出してその割合が高く、情報や認識の共有の困難さが表れている。

子育て環境・満足な点(子育て世帯比較)



子育て環境・改善が望まれる点(子育て世帯比較)

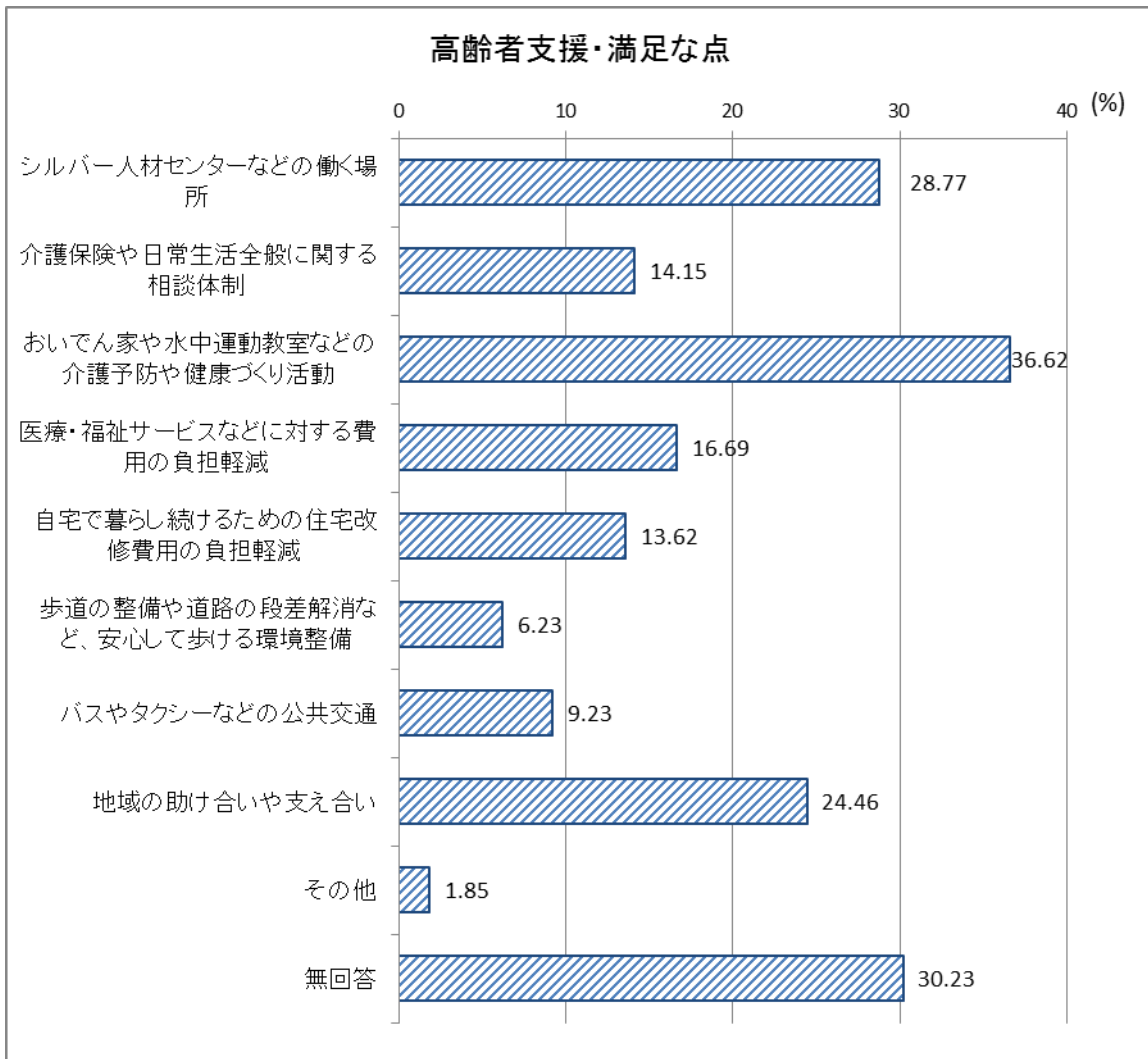


17 高齢者支援

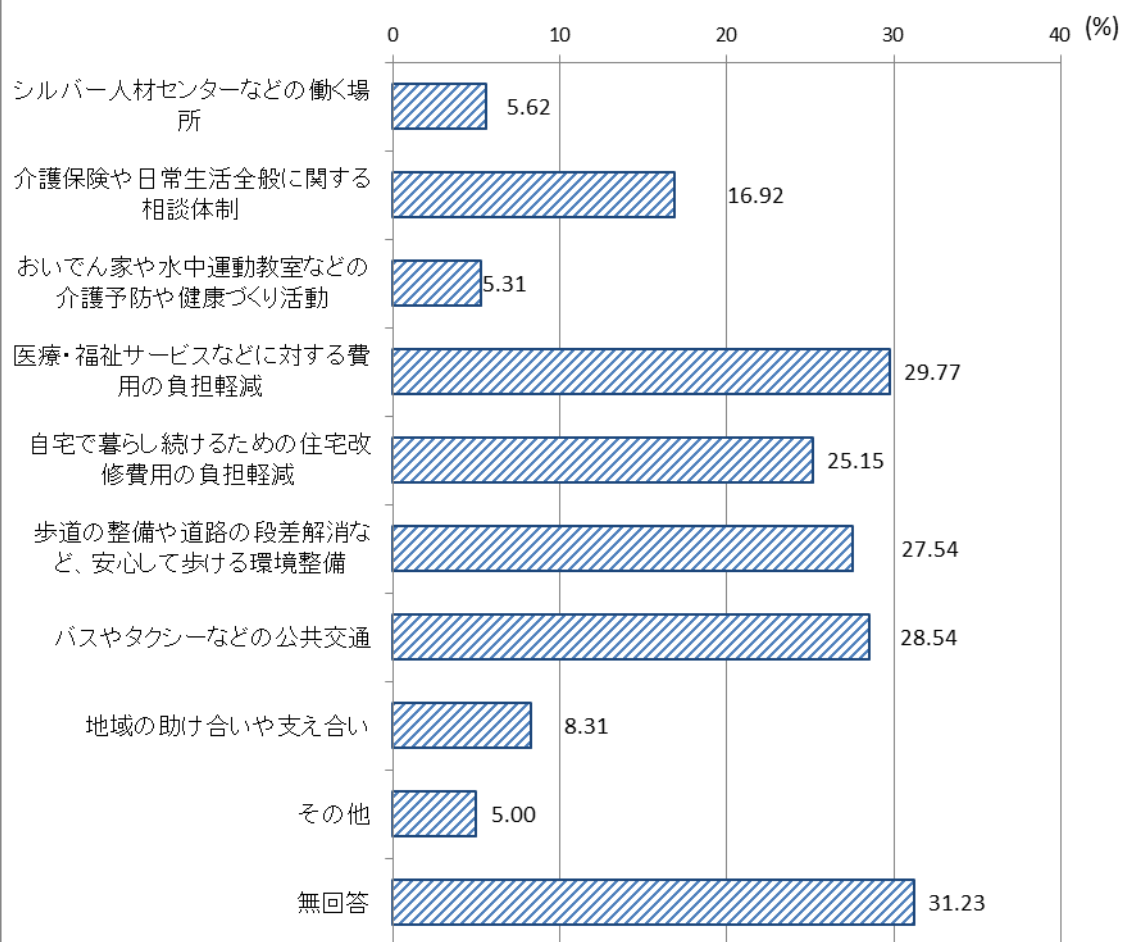
あなたは、東栄町の高齢者の生活を取り巻く環境についてどのように感じていますか。満足している点と改善して欲しい点について、あなたのお考えに近いものを3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

シルバー人材センターによる仕事の提供や、おいでん家の活動、介護予防・健康づくりなど、アクティブな事業については、町民から高い評価を受けている。

一方、公共交通や医療福祉など、不自由や不安な状況をサポートするサービスについては、満足と答える人の比率が低い。



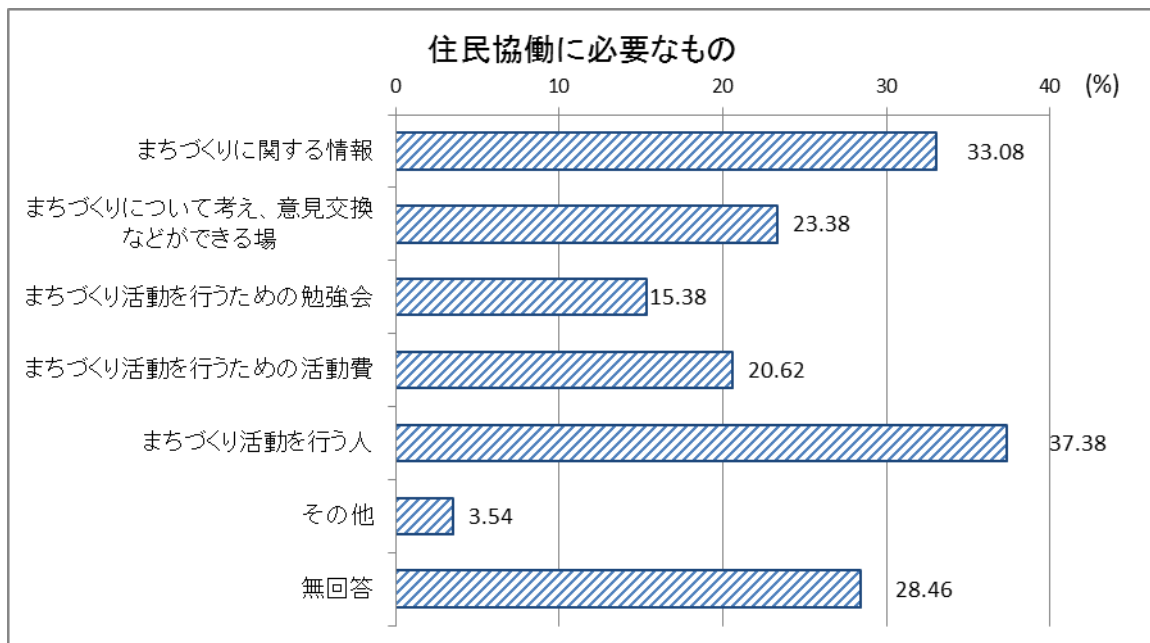
高齢者支援・改善が望まれる点



18 住民協働のまちづくり

問 18 あなたは、住民協働のまちづくりを推進する上で、何が必要だと思いますか。あなたのお考えに最も近い番号すべてに○印をつけてください。

協働に必要なものとして、まちづくり活動を行う人（37.38%）、まちづくりに関する情報（33.08%）、まちづくりについて考え、意見交換などができる場（23.38%）が上位に挙げられている。



19 災害に対する備え

問 19 あなたはどんな災害に対する備えをしていますか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

防災訓練（54.54%）や避難所等の確認（45.54%）の充実は、共助による地域防災を代表するものである。また、非常持出品の準備（60.38%）、非常備蓄品の準備（42.62%）と、物質面の備えについて自助が浸透したことも、共助による啓発の成果といえる。

